

令和元年度

岩手県立博物館  
年報



# 岩手県立博物館令和元年度年報



ゴールデンウィークの岩手県立博物館  
平成 31 年 4 月 29 日撮影

# 目で見る岩手県立博物館この1年



芝生広場の様子（GWスペシャル開催中）  
平成31年4月29日（月・祝）



GWスペシャル「動物ふれあいコーナー」  
平成31年4月29日（月・祝）



GWスペシャル「ミニSLに乗ろう」  
令和元年5月5日（火・祝）



三陸防災復興プロジェクト2019・コラボミュージアム  
「生命のれきしー君につながるものがたりー（設営作業中）」  
令和元年6月21日（金）大船渡市立博物館



テーマ展「古・岩手のクロガネ」（エントランス）  
令和元年6月8日（土）～8月18日（日）



（上）特別展示室の様子  
（下）特別展示室入り口



第70回企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」  
令和元年9月21日（土）～11月24日（日）



第 77 回自然観察会（滝沢市相ノ沢キャンプ場）  
令和元年 7 月 28 日（日）



南部藩 芸術文化体験（能楽「小鍛冶」）  
令和元年 7 月 7 日（日）



館園実習  
令和元年 8 月 17 日（日）～24 日（土）



博物館から生中継（IBC 岩手放送 じゃじゃじゃ TV）  
令和元年 10 月 12 日（土）



博物館まつり・代替イベント「チャンバラ合戦」  
令和元年 11 月 4 日（月）



合同移動展 文化・芸術が集うとき in 一関  
令和元年 11 月 29 日（金）～12 月 1 日（日）



共同展 被災資料再生の今  
令和 2 年 1 月 11 日（土）～2 月 24 日（月）



テーマ展 化石の水族館  
令和 2 年 3 月 14 日（土）～5 月 6 日（水）  
（当初予定）

# 目次

目で見る岩手県立博物館この1年	- 前付 -
<b>1. 沿革</b>	- 3 -
<b>2. 施設の概要</b>	
(1) 建築の概要	- 5 -
(2) 施設配置図・展示室等平面図	- 5 -
(3) 各室面積表	- 6 -
<b>3. 博物館協議会</b>	- 7 -
<b>4. 予算</b>	- 7 -
<b>5. 事業の概要</b>	
(1) 展示活動	- 8 -
(2) 教育普及活動	- 20 -
(3) 調査研究活動	- 39 -
(4) 資料収集保管活動	- 47 -
(5) 総務企画調整	- 55 -
<b>6. 文化財レスキュー活動</b>	
(1) はじめに	- 60 -

(2) 安定化処理	・ ・ ・ ・ ・	- 60 -
(3) 確立した安定化処理技術の普及	・ ・ ・ ・ ・	- 62 -
(4) 被災地支援	・ ・ ・ ・ ・	- 63 -
(5) 今後の課題	・ ・ ・ ・ ・	- 64 -

## 7. 岩手県立博物館友の会

(1) 概要	・ ・ ・ ・ ・	- 65 -
(2) 会員数	・ ・ ・ ・ ・	- 65 -
(3) 主催事業	・ ・ ・ ・ ・	- 65 -

## 8. 博物館利用者入館状況

## 9. 令和元年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織

## 10. 岩手県立博物館使命書

## 11. 関係条例・規則等

# 1. 沿革

昭和 48 年	4 月	県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3 名）を設置
昭和 48 年	5 月	県庁内に副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
	昭和 48 年 6 月	博物館資料調査委員（委員 22 名）を委嘱
昭和 48 年	7 月	民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員 25 名）を設置
昭和 48 年	8 月	展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員 20 名）を設置
昭和 49 年	4 月	県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班 10 名）を設置
昭和 50 年	5 月	博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員 6 名）を設置
昭和 51 年	1 月	県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
昭和 51 年	10 月	建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
昭和 52 年	4 月	博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17 名）を設置
昭和 53 年	6 月	起工式
昭和 53 年	10 月	展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
昭和 54 年	11 月	定礎式
昭和 55 年	7 月	博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館と決定
昭和 55 年	7 月	コンパニオン（非常勤専門職員 15 名）任用
昭和 55 年	10 月	岩手県立博物館設置
昭和 55 年	10 月	落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4 日）
昭和 55 年	10 月	岩手県立博物館開館（5 日）
昭和 55 年	10 月	日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
昭和 56 年	3 月	第 1 回岩手県立博物館協議会開催
昭和 59 年	10 月	皇太子同妃両殿下ご来館（14 日）
昭和 60 年	4 月	財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
昭和 62 年	5 月	入館者 100 万人を突破（1 日）
平成 元年	3 月	地質総合展示室改修完了
平成 2 年	5 月	岩手県立博物館友の会設立（1 日）
平成 2 年	7 月	歴史古代展示室改修完了
平成 2 年	10 月	開館 10 周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
平成 3 年	2 月	入館者、県民人口を超える（14 日）
平成 3 年	11 月	入館者、150 万人を達成（1 日）
平成 3 年	12 月	歴史中世展示室改修完了
平成 4 年	1 月	コンパニオンを「解説員」に改称
平成 5 年	2 月	秋篠宮同妃両殿下ご来館（5 日）
平成 5 年	3 月	現勢展示室イヌワシの山改修完了
平成 5 年	10 月	国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
平成 5 年	10 月	皇太子殿下ご夫妻ご来館（10 日）
平成 6 年	1 月	「中尊寺黄金秘宝展」開催
平成 6 年	12 月	屋上改修工事完了
平成 9 年	12 月	文化振興事業団 10 周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
平成 8 年	4 月	重要文化財勸告出品館となる
平成 9 年	2 月	重要文化財公開承認施設となる
平成 9 年	7 月	入館者、200 万人を達成（16 日）
平成 10 年	1 月	ハイビジョン室設置
平成 12 年	3 月	収蔵庫等改修工事完了
平成 12 年	3 月	企画展第 50 回目を迎える（「岩手の経塚」）
平成 12 年	10 月	開館 20 周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
平成 13 年	5 月	近代美術展示閉鎖（美術館へ移管）
平成 14 年	3 月	マメンキサウルス（モシリユウ）全身骨格複製標本展示



- 平成 18 年 4 月 施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。(財)岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
- 平成 21 年 1 月 入館者、250 万人を達成 (10 日)
- 平成 21 年 4 月 (財)岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる
- 平成 22 年 1 月 外部階段改修工事完了
- 平成 22 年 10 月 開館 30 周年記念特別企画展「いわての漆」開催
- 平成 23 年 3 月 美化事業完了
- 平成 24 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる
- 平成 24 年 12 月 秋篠宮同妃両殿下ご来館 (20 日)
- 平成 25 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(22 日)
- 平成 26 年 3 月 文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20 日)
- 平成 26 年 3 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置 (建築面積 115.22 m<sup>2</sup>、延床面積 230.44 m<sup>2</sup>)
- 平成 26 年 5 月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所 (可視化により一般公開)
- 平成 27 年 1 月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(14 日)
- 平成 27 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 4 期目の指定管理者となる
- 平成 28 年 1 月 文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史～」開催
- 平成 29 年 3 月 中央監視システム更新工事完了
- 平成 29 年 3 月 旧佐々木家・旧藤野家住宅保存修理 (屋根) 工事完了
- 平成 29 年 3 月 正面入口案内看板設置
- 平成 29 年 8 月 ボイラー更新工事完了
- 平成 30 年 2 月 岩手山眺望確保のための樹木剪定
- 平成 30 年 3 月 昇降機改修工事完了
- 平成 30 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 5 期目の指定管理者となる
- 平成 30 年 12 月 マメンキサウルス補修工事完了
- 平成 31 年 1 月 不活性ガス消火設備更新工事完了
- 令和 元年 12 月 非常用発電機更新工事完了
- 令和 2 年 3 月 冷却塔更新工事完了

## 2. 施設の概要

### (1) 建築の概要

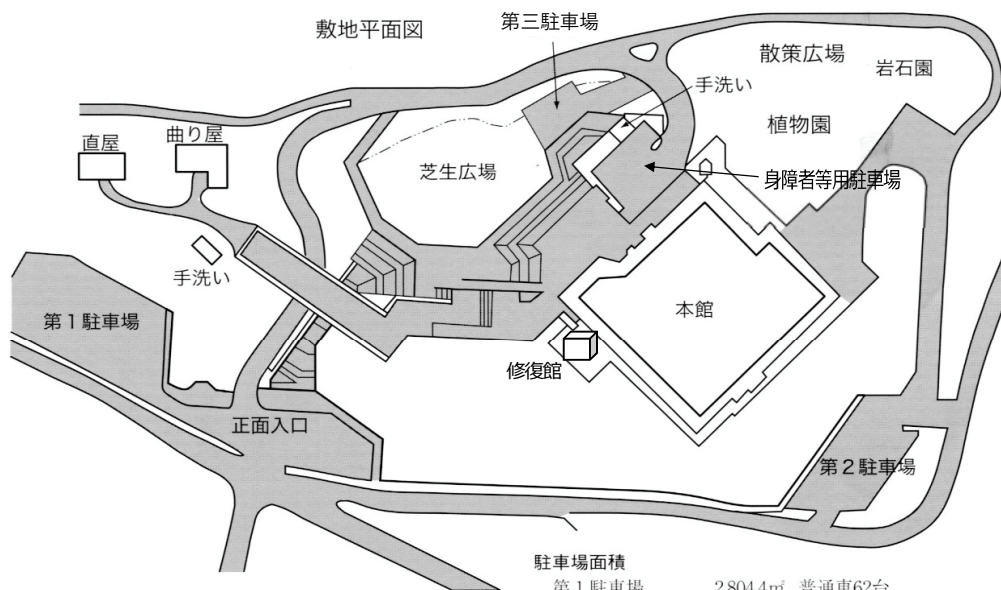
〈総工事費〉 ● 44億3,000万円

〈工期〉 ● 着工 昭和53年3月15日 ● 完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ● 敷地面積 53,112.78㎡ ● 建築面積 5,192㎡ ● 延床面積 12,051.56㎡

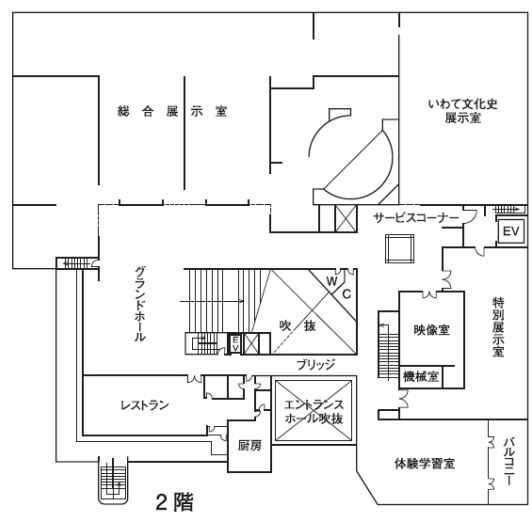
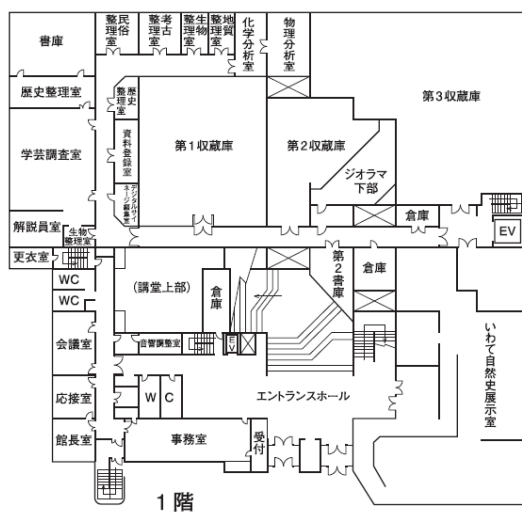
※仮施設の面積等は含んでいない

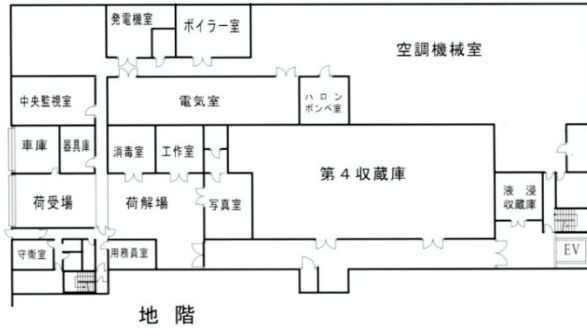
### (2) 施設配置図・展示室等平面図



駐車場面積

第1駐車場	2,804.4㎡	普通車62台
第2駐車場	1,251㎡	普通車12台、大型バス14台
高齢者等用駐車場	410.9㎡	普通車8台
第3駐車場	93.5㎡	普通車5台
身障者等用駐車場		普通車7台





### (3) 各室面積表

部屋名		面積(m <sup>2</sup> )	部屋名		面積(m <sup>2</sup> )	部屋名		面積(m <sup>2</sup> )
地階	空調機械室	766.09	1階	いわて自然史展示室	729.27	2階	総合展示室	1,553.85
	発電気室	50.26		パネル倉庫	35.56		県土の誕生	102.35
	蓄電気室	9.71		風除室	3.21		いわての夜明け	187.60
	ボイラー室	64.36		受付	18.65		いわてのあゆみ	743.20
	中央監視室	64.67		印刷室	8.50		庶民のくらし	210.00
	電話交換機室	8.89		事務室	116.01		いわての今	310.70
	電気室	142.54		館長室	43.33		いわて文化史展示室	489.07
	ハロンポンプ室	37.86		応接室	41.40		ミニプラザ(1)	210.42
	消火栓ポンプ室	17.14		会議室	64.23		ミニプラザ(2)	129.50
	エレベーター機械室	20.52		倉庫	14.25		特別展示室	292.20
	第4収蔵庫	464.48		身障者便所	6.47		映像室	124.00
	第5収蔵庫(液浸)	39.72		No.3便所	43.85		No.4便所	30.11
	エレベーターシャフト	18.24		No.2便所	39.67		体験学習室	217.17
	車庫	38.33		音響調整室	20.84		厨房	54.93
	器具庫	25.24		同上前室	10.28	休憩室	160.08	
	消毒室	37.86		予備室	32.07	休憩室便所	10.98	
	工作室	35.90		ロッカー室	10.45	厨房事務室	10.24	
	暗室	11.91		女子更衣室	20.55	厨房便所	4.16	
	作業室	4.06		学芸調査室	236.04	食品庫	6.90	
	写真室	52.94		歴史整理室	59.21	グランドホール	213.66	
	荷受場	79.63		書庫	113.36	階段・廊下・その他	618.20	
	荷解場	113.75		民俗整理室	35.84	小計	4,125.47	
	用務員室	26.39		考古整理室	35.84	塔屋	133.44	
	守衛室	18.00		生物整理室	25.10	合計	12,051.56	
宿直室	21.17	地質整理室	25.20	●展示面積	3,404.31 m <sup>2</sup>			
湯沸室	3.81	歴史整理室	35.43	●収蔵庫面積	1,665.98 m <sup>2</sup>			
浴室	5.71	第1資料登録室	21.90	●学芸調査室	236.04 m <sup>2</sup>			
便所	6.75	化学分析室	41.66	●研究室	274.91 m <sup>2</sup>			
タラップ室	6.75	物理分析室	53.94					
フォークリフト置場	12.75	デジタルサイネージ	20.72					
廊下・階段・その他	280.32	編集室	20.72					
小計	2,485.75	第1収蔵庫	365.15					
中地階	いす保管庫	98.61	第2収蔵庫	188.25				
	外部用倉庫	20.38	第3収蔵庫	608.38				
	教室	81.07	倉庫	9.18				
	準備室	22.83	第2書庫	42.69				
	実技室	115.66	ジオラマ下部	119.13				
	便所	29.02	グランドホール	133.19				
	講堂	164.09	ロビー1	101.79				
	効果室	14.50	ロビー2	35.84				
	ホワイエ	68.29	階段・廊下・その他	888.10				
	タラップ室	5.14	小計	4,454.53				
	廊下・その他	232.78						
	小計	852.37						

### 3. 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。令和元年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

期日：令和2年1月29日（水）

場所：岩手県立博物館会議室

報告・協議事項

- ・「県立博物館における文化財への不適切行為事案」調査の経過報告について
- ・平成30年度博物館協議会の意見等への対応状況について
- ・令和元年度博物館事業実施状況について
- ・令和2年度博物館事業計画（案）について
- ・運営全般について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 令和3年6月22日まで）

氏名	職	分野
本田 岳雄	盛岡市立東松園小学校長	学校教育 県小学校長会
菊池 正樹	盛岡市立厨川中学校長	学校教育 県中学校長会
五日市 健	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
松田 恵美子	岩手県青年団体協議会会長	社会教育
大坊 邦子	特定非営利法人岩手県地域婦人団体協議会理事	社会教育
玉館 誠	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	社会教育
齋藤 桃子	石神の丘美術館主任学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
星 俊也	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
細越 千絵子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県立博物館友の会
及川 亜希子	(株)岩手日報社編集局学芸部次長	学識経験者
松政 正俊	岩手医科大学教授	学識経験者
菅野 文夫	岩手大学教授	学識経験者
山本 玲子	画家・民俗芸能研究者	学識経験者
沼里 由紀子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者
小山 信一		公募委員

（令和2年3月31日現在）

### 4. 予算

（単位：千円）

項目	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
管理運営費	175,957	170,462						
総務企画調整費		5,243	3,759	4,172	3,945	3,782	5,317	4,471
展示活動費	17,775	11,673	10,074	7,090	10,826	8,115	3,949	7,443
資料収集保管活動費	40,659	40,319	29,894	27,599	21,846	21,983	22,817	20,911
調査研究活動費	4,811	7,273	7,326	7,585	7,276	7,304	7,556	6,921
教育普及活動費	5,450	1,987	1,633	1,683	1,798	1,558	1,616	1,664
業務管理費			37,699	34,282	34,155	33,251	32,439	32,122
指定管理者事業費			127,861	130,034	129,269	132,832	131,395	132,600
計	244,652	236,957	218,246	212,445	209,115	208,825	205,089	206,132
項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
総務企画調整費	3,984	3,807	3,442	3,882	3,401	3,380	3,328	3,152
展示活動費	6,619	6,811	7,589	9,686	11,321	8,262	6,198	10,095
資料収集保管活動費	21,109	21,446	19,911	20,086	18,304	18,951	18,342	31,125
調査研究活動費	6,703	6,611	5,956	4,986	3,438	3,428	3,460	3,339
教育普及活動費	1,770	1,515	1,295	1,275	444	454	507	493
業務管理費	32,529	33,880	35,950	36,277	34,449	34,735	32,085	41,130
指定管理者事業費	130,502	130,401	133,050	132,345	134,334	134,146	136,914	138,015
計	203,216	204,471	207,193	208,537	205,691	203,356	200,834	227,349

※ 1 職員の人件費を除く

2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成27年度は特別展「近代へのとびら」展、平成28年度は特別展「スポーツ博覧会いわて」展開催に係る特別予算を加算した。

3 総務企画調整は17年度から項目を起こした。

4 18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした

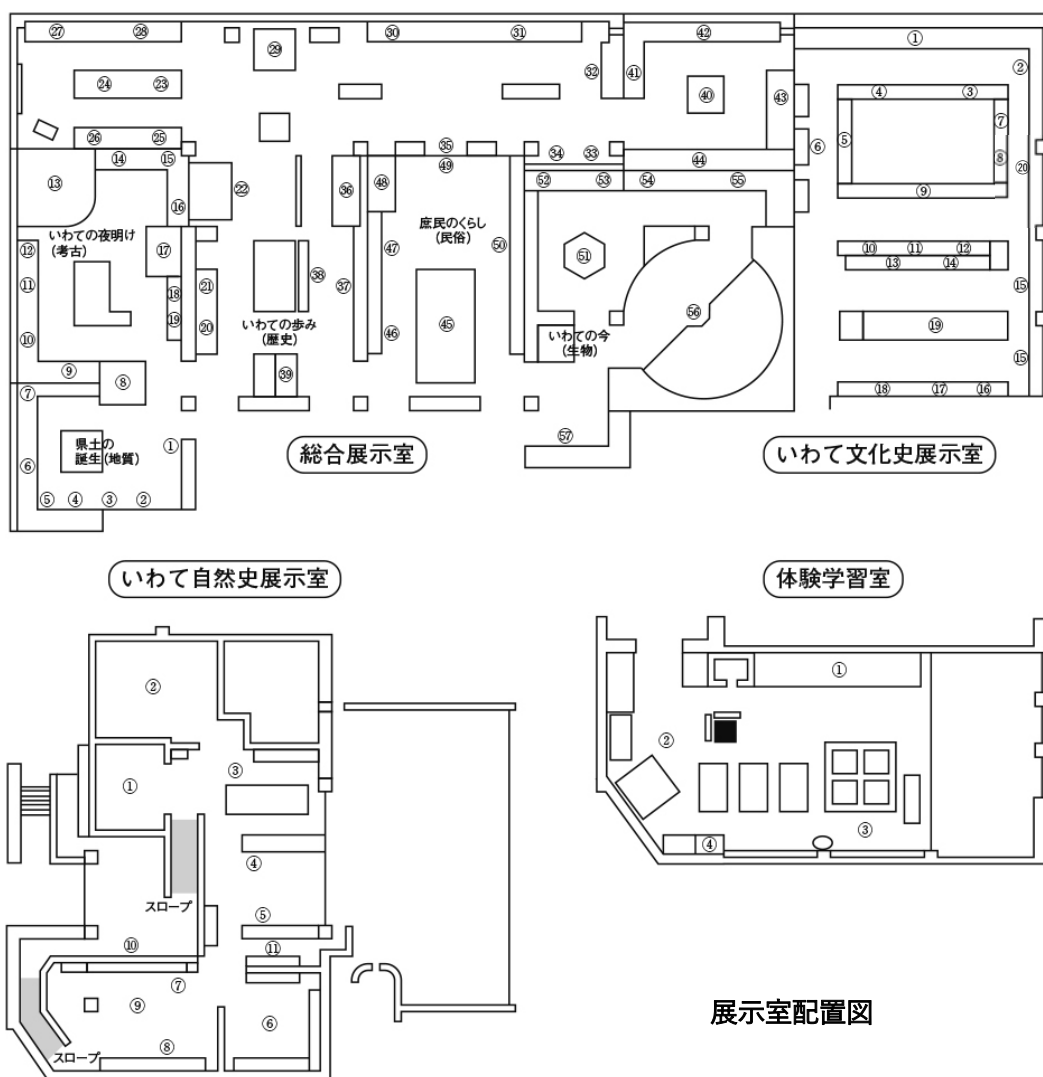
## 5. 事業の概要

### (1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集した資料、入手困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきたが、令和元年度（2020年3月31日）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、323,333点に及んでいる。その中でも、常設展示されるものはわずか2,000点に過ぎず、この他の資料は5つの収蔵庫に保管されたままとなっているものもある。これらについては、季節や年中行事にあわせた展示替えやトピック展示の際に活用し、より多くの県民の目に触れることが出来るよう心がけている。

総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古に関連する人文系資料、いわて自然史展示室には地質・生物など、自然史に関する専門的な資料が展示されている。この他に、エントランスホールやミニプラザでトピック展示などを行うなど、各種展示の機会を増やすよう努力している。

令和元年度は、歴史部門テーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし～」、考古部門テーマ展「古・岩手のクロガネー発掘から見てきた古代～中世の鉄文化～」、歴史部門企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」、共同展「被災資料再生の今～過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ～」を開催した。また、館外では岩手県文化振興事業団による埋蔵文化財センター・県立美術館・県民会館との合同移動展を、一関文化センターで開催している。



## 5. (1) 展示活動

### ア. 展示構成

エントランスホール	
・兜蹴毘沙門天立像	(31) 南部と馬
・モシリユウとマメンキサウルス	(32) 街道と舟運
・岩手の眺望	(33) 藩学と寺子屋
	(34) 先駆者たち
	(35) 維新前夜

総合展示室	
● 県土の誕生(地質)	10 進む近代化(近代)
1 県土のおいたち	(36) 生活の洋風化
(1) 東北地方の地下断面	(37) 岩手県の誕生
(2) 気仙隕石	(38) 明治時代から大正時代へ
(3) 岩手県の地質と岩石	(39) 太平洋戦争
2 いわたの古生物相の変遷	11 古美術
(4) 生命史以前	(40) 罈
(5) 古生代の生きもの	(41) 絵画・工芸
(6) 中生代の生きもの	(42) 刀剣
(7) 古第三紀～新第三紀の生きもの	(43) 絵画・工芸
(8) 鮮新世～第四紀の生きもの	(44) 絵画
● いわたの夜明け(考古)	● 庶民のくらし(民俗)
3 旧石器時代	12 家のくらし
(9) 氷河期の人びと	(45) いろいろ
4 土器の時代	(46) 正月の行事
(10) 岩手の縄文土器	(47) 庶民の信仰
(11) 貝塚の形成	13 働く人びと
(12) 埋葬と装飾品	(48) 農村の人びと
(13) 縄文人のくらし	(49) 漁村の人びと
(14) 大洞文化	(50) 山村の人びと
5 稲作を始めた時代	14 まつりと芸能
(15) 弥生文化と岩手	● いわたの今(現勢・生物)
6 古墳を築いた時代	15 わたしたちの郷土いわた
(16) 拓かれる北上平野	(51) 岩手県地形模型
(17) 群集墳	(52) 岩手の四季
(18) 集落と住居	(53) 県の鳥・木・花
(19) 生産技術の変革	16 恵まれた自然
● いわたの歩み(歴史)	(54) 岩手の風土
7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)	(55) 山や川の生き物
(20) 古代の城柵	(56) イヌワシの山
(21) 安倍氏の台頭	(57) 豊かな海
(22) 奥州平泉とその文化	
8 戦乱の時代とその文化(中世)	
(23) 文治五年奥州合戦	
(24) 豪族たちの動きと庶民	
(25) 新しい仏教文化	
(26) 九戸政実の乱	
9 藩制時代の人々(近世)	
(27) 藩政の確立	
(28) 凶作と一揆	
(29) 盛岡城と町づくり	
(30) 産金と製鉄	

いわて文化史展示室	
考古	(10) 写真でみる岩手の自然
(1) 岩手の土器	(11) 東日本大震災と 被災文化財等救援活動
(2) 北上山系の洞穴遺跡	
(3) 岩手の石器と鉄器	
(4) 三陸の貝塚	
(5) 豊岡遺跡	
(6) 柳之御所遺跡	
歴史	
(7)	かたな・刀装具の世界～鏢～
(8)	
(9)	
(10)	
(11)	
(12)	
(20) 村松大感墨跡・錦絵	
民俗	
(13) いわたの板碑・森口多里コレクション	
(14) オシラサマ・絹と麻・いわたの養蚕	
(15) 盛岡竿・不動明王	
(16) いわたの民芸	
(17) 郷土料理	
(18) 南部絵巻	
(19) むかしの暮らし大図鑑	

体験学習室	
(1) 身につける 鎧、夜会服、野良着等	
(2) ためす 虫の鳴き声ボックス、機織等	
(3) あそぶ かるた、板がえし等	
(4) よむ	

いわて自然史展示室	
(1) 大地の中の小さな輝き －鉱物コレクション－	
(2) 地球史の中の岩手の自然	
(3) 海にもどって大進化	
(4) 海の哺乳類	
(5) 空に向かって大進化	
(6) 水辺の生きもの	
(7) 日本のキツツキと希少な鳥獣	
(8) 早池峰山の自然	
(9) 大空の覇者ワシ・タカの世界	

屋外展示	
民家	
・直屋 旧藤野家住宅(重文)	
奥州市江刺区伊手御堂	
・曲屋 旧佐々木家住宅(重文)	
下閉伊郡岩泉町指畑	
散策広場	
・植物園	
県内の植物等345種	
・岩石園	
火山岩、変成岩、堆積岩50種	

## イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

長期間の展示による資料の劣化・退色防止、および季節や年中行事などにあわせた展示とするため、常設展示では不定期に展示替えを行っている。さらに、企画展やテーマ展に間接的に関わる資料や、夏休み・冬休みを主体として子供向けの資料をトピック展示した。

表 5.(1)-1 令和元年度の主な展示替え・トピック展

No.	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日	担当
1	いわて文化史展示室	トピック展	風雅好古 -太田夢庵の金石收藏・ 研究と文人の世界-	太田コレクション	3.5～6.2	原田
2	いわて文化史展示室	トピック展	縄文時代の岩手の往来	ヒスイ勾玉 アスファルト付土偶 オオツタノハ製腕輪 黒曜石 ガラス玉	3.29～	金子
3	総合展示室 (庶民の暮らし)	展示替え	五月人形	花巻人形ほか	4.10～5.26	近藤
4	いわて自然史展示室	トピック展	青い鳥 (愛鳥週間に因み)	コルリ オオルリ ブッポウソウ サンコウチョウ ヤマシヨピン カケス ヤイロチョウ カワセミ	4.9～7.15	藤井
5	いわて文化史展示室	展示替え	陶器人形	陶器人形、ほか	5.5～5.23	近藤
6	ミニプラザ (露出展示)	トピック展	岩手県立博物館所蔵の珍しい鳥の剥製標本	ハワイシロハラミズナギドリ オオフウチョウ シロエリオオハム	5.17～8.27	藤井
7	いわて自然史展示室	展示替え	クモの模型	企画展「クモ」の模型	5.17～	生物
8	ミニプラザ (大ケース)	トピック展	九州地方の弥生土器	土器 3点	5.23～8.27	濱田
9	いわて文化史展示室	展示替え	夏の風物詩	ハエ取り機、ほか	6.6～10.21	近藤
10	体験学習室	トピック展	七夕飾り	笹(6本) 短冊	7.2～7.28	武田
11	グランドホール ミニプラザ	トピック展	骨の動物園2	ミンククジラ・ベンガルトラほか	7.2～8.25	渡辺
12	いわて文化史展示室	展示替え	村松大感墨跡	「無」・「燦」・「回帰」・「塵劫」	9.21～	歴史
13	ミニプラザ	夏の特別展	岩手と世界のカブト・クワガタ	昆虫標本	7.2～8.25	渡辺
14	ミニプラザ	冬の特別展	クマゲラの世界	A1サイズ写真パネル 105点	11.1～1.5	藤井
15	総合展示室 (歴史)	トピック展	黒石寺重文公開	薬師如来坐像	11.6～12.22	歴史
16	総合展示室 (歴史)	トピック展	黒石寺重文公開	木造僧形坐像	11.6～12.22	歴史
17	総合展示室 (歴史)	展示替え	よろい	本小札白糸威二枚胴具足	11.26～	歴史
18	総合展示室 (歴史・古美術)	展示替え	蒔絵・文台	吉野山・柿に鳥	11.28～	歴史
19	現勢展示室	展示替え	五葉山コーナー	カモシカ親子を追加	12.5～	生物
20	いわて自然史展示室	トピック展	もしかしてヒアリ!?	ヒアリの識別	12.10～2.2	生物
21	いわて文化史展示室	展示替え	昔の暮らし	「あたたまる道具」を追加	12.20～	民俗
22	いわて自然史展示室	トピック展	驚異の部屋 深海生物編	三陸沖産深海魚等	2.4～5.21	生物
23	総合展示室 (庶民の暮らし)	展示替え	ひな人形	享保雛・花巻人形など	2.16～5.5	民俗
24	いわて文化史展示室	トピック展	小椋久太郎のこけし	木地山こけし	3.6～5.6	米田

## ウ. 特別展示の概要

令和元年度は、以下の展覧会を開催した。協同巡回展は、三陸防災復興プロジェクト 2019 の開催に合わせて国立科学博物館と岩手県立博物館が沿岸部の 7 館（久慈市・もぐらんぴあ、宮古市・崎山貝塚と水産科学館、釜石市・郷土資料館、山田町・鯨と海の科学館、大船渡市および陸前高田市・市立博物館）と協同しながら催した展覧会である。合同移動展は、公益財団法人岩手県文化振興事業団の主催事業で、当館・美術館・埋蔵文化財センター・県民会館の 4 事業所が一関文化センターを会場として実施したものである。

令和元年度最後の展覧会となったテーマ展「化石の水族館」は、コロナウィルスの感染拡大防止、および令和 2 年 4 月 25 日(土)から 5 月 6 日(水)の臨時休館によって、予定していた講演や解説会を中止し会期も変更された。詳しくは後述する。

表 5.(1)-2 令和元年度の企画展・テーマ展・共同展・合同移動展

種 別	名 称	会 期
テーマ展	「岩手の往来～道路のいま・むかし～」	平成 31 年 3 月 16 日 (土) ～ 令和元年 5 月 6 日 (月・祝)
テーマ展	「 <sup>いにしえ</sup> 古・岩手のクロガネ—古代～中世の鉄文化」	令和元年 6 月 8 日 (土) ～ 8 月 18 日 (日)
企画展	「よろい・かぶと・かたなの世界」	令和元年 9 月 21 日 (土)～ 11 月 24 日(日)
共同展	「被災資料再生の今～過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ～」	令和 2 年 1 月 11 日 (土) ～ 2 月 24 日 (月)
テーマ展	「化石の水族館」	令和 2 年 3 月 14 日 (土) ～ 5 月 6 日 (水) (当初予定)
協同巡回展	三陸防災復興プロジェクト 2019 三陸ジオパーク ワクワクフェスタ 国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム 「生命のれきし 一君につながるものがたり」	岩泉小本会場 令和元年 6 月 2 日 (日) ～ 6 月 16 日 (日) 大船渡会場 令和元年 6 月 22 日 (土) ～ 7 月 15 日 (月・祝)
合同移動展	「文化・芸術が集うとき in 一関」 令和元年度岩手県立博物館移動展・第 40 回埋蔵文化財展	令和元年 11 月 29 日 (金) ～ 12 月 1 日 (日)
巡回展	「クマガラの世界」	令和元年 9 月 28 日 (土) ～ 10 月 20 日 (日)

### 5. (1) ウ. 特別展示の概要

#### (ア) テーマ展「<sup>いにしえ</sup>古・岩手のクロガネ—発掘から見えてきた古代～中世鉄文化—」

本県は、近世から続く南部鉄器や世界遺産に登録された近代製鉄の始まりとなる橋野鉄鉾山跡、そして現代に至る釜石市の製鉄産業と鉄生産地として著名であり、当館では、平成 2 年度に開館 10 周年記念特別企画「北の鉄文化」展を開催した。しかし当時の県内では鉄生産関連遺跡の発掘調査事例も少なく、特に古代～中世に関する究明は文献資料が乏しいこともあり不十分なものだ



った。現在では、沿岸部において三陸自動車道などの大規模開発や、東日本大震災に係わる復興関連の発掘調査等により、古代～中世の鉄生産関連遺跡の調査事例が増え様相が明らかとなってきた。

本展では、今では写真でしか見ることのできない遺構にスポットをあてた展示とし、沿岸部の鉄生産関連資料を中心に、県内の最新情報を紹介し、発掘成果から見えてきた岩手の古代～中世の鉄生産の技術的変遷と系譜について紹介した。

第1章では製鉄技術伝播前の県内の鉄について、第2章では県内での製鉄の始まりと技術の進歩について、第3章では岩手の鍛冶・鉄器加工について、第4章では製鉄技術と同時期にもたらされた陶工技術について、第5章では東北の製鉄関連遺構の構造について、第6章では岩手の製鉄技術の系譜について研究成果を紹介した。

会期：令和元年6月8日（土）～令和元年8月18日（日） 実開催日数 66日

会場：特別展示室

会期中の入館者数：10,297名（開幕前日＝プレオープンの入館者数も含む）

#### 〔展示内容〕

プロローグ 鉄の伝来

第1章 岩手の鉄使用の始まり

第2章 岩手の製鉄の始まりと技術の進歩

第3章 岩手の古代～中世の鉄器加工の様相

第4章 鉄生産技術の伝播と類似する古代土器生産技術

第5章 東北の古代～中世の製鉄関連遺構

第6章 岩手の製鉄技術の系譜

エピローグ 岩手の近世たたら

#### 〔関連事業〕

・展示解説会 各回 14：30～15：00 特別展示室

① 令和元年6月30日（日） ② 7月21日（日） ③ 8月3日（土）

・県博日曜講座 令和元年7月14日（日）13：30～15：00 講堂

演題：「岩手の古代～中世鉄生産の系譜」

講師：小山内透（展覧会担当学芸員）

・考古学セミナー講演会（日曜講座兼） 令和元年7月28日（日）13：30～15：00

演題：「古代東北の鉄生産－陸奥国南部を中心にして－」

講師：能登谷宣康氏（（公財）福島県文化振興財団遺跡調査部）

・考古学セミナー現地見学会 令和元年10月26日（土）10：00～12：30

会場：葛巻町水車の里交流館 「八戸藩葛巻商人の鉄山経営」

講師：佐々木清文氏（元（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）

・たたら製鉄実演 令和元年8月4日（日）9：00～16：00 正面玄関前 見学無料

実演講師：留畑昌市氏（元釜石市鉄の歴史館館長）

#### 〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷、500部

リーフレット A4判、両面（表：カラー印刷、裏：2色刷）、13,000部

## (イ) 第70回企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」

武家の力を象徴するものとして現代に伝えられる甲冑、刀剣、刀装具などを紹介するものである。本来実用的な性格を持つ武具・武器は、時代の変遷により華麗な美術品へと変貌を遂げた。本展覧会では、当館所蔵の盛岡南部氏旧蔵の資料を中心に、工芸品としての側面とともに、所有していた大名の人物像を浮かび上がらせる歴史資料としての側面も併せて紹介する。

会期：令和元年9月21日（土）～令和元年11月24日（日） 実開催日数 58日

会場：特別展示室・総合展示室・いわて文化史展示室

会期中の入館者数：13,060人

### 〔展示内容〕

第1章 かぶとの誕生

第2章 よろいの移り変わり

第3章 盛岡藩のよろい

第4章 武将の愛したよろい

第5章 古文書の中のよろい・かぶと

第6章 異形の美～変わり兜の世界～

第7章 かたな・刀装具の世界

### 〔関連事業〕

・文化講演会 令和元年11月3日（日・祝）13：30～15：00 講堂

演題：「刀工の業～助真を中心に～」

講師：渡邊妙子氏（公益財団法人佐野美術館 理事長）

・展示解説会 各回14：30～15：30 特別展示室

① 令和元年9月23日（月・祝） ② 10月20日（日） ③ 11月17日（日）

・子ども向け展示解説会 「よろい・かぶと・かたなのひみつ教えます！！」 特別展示室

① 令和元年10月5日（土） ② 11月10日（日）

各回11：00～11：30

・県博日曜講座 令和元年9月22日（日）13：30～15：00 講堂

演題：「大名と甲冑～盛岡藩を中心に～」

講師：原田祐参（展覧会担当学芸員）

・県博日曜講座 令和元年10月6日（日）13：30～15：00 講堂

演題：「戦国武将と変わり兜」

講師：須藤茂樹氏（四国大学教授）

・子ども向けワークショップ「鯰尾兜（なまずおのかぶと）をつくろう！！」 会場：教室

① 令和元年9月28日（土） ② 10月26日（土） ③ 11月9日（土）

各回13：00～14：00

・子ども向け甲冑着用体験「よろい・かぶとを身につけよう！！」 会場：体験学習室

① 令和元年9月29日（日） ② 10月19日（土） ③ 11月16日（土）

各回10：00～11：30、14：45～16：00

### 〔印刷物〕

ポスター B2、カラー印刷、1000部

リーフレット A4版、両面カラー、30,000部

## (ウ) 共同展「被災資料再生の今～過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ～」

東日本大震災では、岩手県内でおよそ 50 万点にも及ぶ文化財等資料が被災した。発災直後から被災文化財の救援活動が開始されたが、津波で被災した文化財の再生は国際的にも初めての試みで、現在も試行錯誤を繰り返しながら続けられている。そして、この活動は資料の物質的な再生のみならず、文化の証としてその学術的価値を再確認し将来へ伝えていく総合的な取り組みでもある。

この展覧会では、資料再生のために構築された方法と再生の現状を示すとともに、資料の学術的調査によって明らかにされた三陸の文化や先人の業績の一端を紹介した。主な展示資料は、古文書、絵図、写真資料、漁撈用具、押し葉標本、アクリル画である。また、東日本大震災によって被災・救出された資料に加え、平成 28 年 8 月 30 日に襲来した台風 10 号によって水損した岩泉町の近世文書や遠野市立図書館所蔵書籍類について、迅速に救出し安定保管しながら再生が進められた状況を実物資料とともに紹介した。近年、台風等による自然災害が全国で頻発しており、この対応に東日本大震災での経験が活かされている。

なお、本展覧会は津波で被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会との共同開催である。

会期：令和 2 年 1 月 11 日（土）～令和 2 年 2 月 24 日（月） 実開催日数 39 日

会場：特別展示室、ミニプラザ

会期中の入館者数：4,165 人

### 〔展示内容〕

#### 第 1 章 過去と未来をつなぐ

旧陸前高田市民体育館大時計（陸前高田市立博物館蔵）

#### 第 2 章 文化をつなぐための挑戦 ―紙製資料安定化処理の今―

黄褐色に変色した書籍類（初期安定化処理済）、写真プリント（未処理）など（いずれも陸前高田市立博物館蔵）。試行錯誤を繰り返して構築された安定化処理方法や、新たな技術的課題など、安定化処理の今を紹介。

#### 第 3 章 資料から学ぶ（1）―古文書・絵図・写真―

吉田家文書「定留」・気仙郡村絵図（個人蔵・岩手県指定文化財）、前川家文書（個人蔵）、長崎ギヤマン（個人蔵）、盛合家文書（個人蔵）、鳥羽源藏コレクション写真プリント（陸前高田市立博物館蔵）など。再生が終了し公開可能となった古文書、絵図、写真プリントと、その学術的情報を紹介。

#### 第 4 章 資料から学ぶ（2）―国登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」―

陸前高田の漁撈用具（陸前高田市立博物館蔵・国登録有形民俗文化財）。再生された資料の中から、春から秋に黒潮とともに北上する、あるいは秋から冬に親潮とともに南下する魚類に関するものを取り上げ、漁撈の様子をイラストで紹介。

#### 第 5 章 資料から学ぶ（3）―岩手博物学の太陽・鳥羽源藏 新発見資料を中心に―

ナンブトラノオ押し葉標本など（陸前高田市立博物館蔵）。陸前高田市出身の博物学者・鳥羽源藏が収集した押し葉標本の中に、植物学上貴重な資料が多数存在することがわかってきた。

その一部を紹介。

#### 第6章 挑戦はつづく ―再生方法の模索・美術品―

アクリル画・行木正義「序・黒の思考」など（陸前高田市立博物館蔵）。安定化処理が困難な絵画のうち、脱塩方法が構築されたアクリル画について、救出から応急処置、安定化処理までの流れを紹介。

#### ミニプラザ展示 ― 3.11 後～ 頻発する自然災害に対して ―

書籍類（遠野市立図書館蔵）、近世文書（岩泉町・個人蔵）。平成28年8月の台風10号により水損被害を受けた紙製資料について、被災から再生に至るまでの歩みを紹介。

#### 〔関連事業〕

- ・特別講演会 令和2年2月2日（日）13：30～15：00 会場：講堂  
演題：「再生された近世文書にみる三陸のくらし」  
講師：兼平賢治氏（東海大学准教授）
- ・展示解説会 会場：特別展示室・ミニプラザ
  - ① 令和2年1月19日（日）14：30～15：30  
解説者：丸山浩治、鈴木まほろ（当館学芸員）
  - ② 令和2年2月2日（日）15：15～16：15  
解説者：兼平賢治氏（東海大学准教授）、丸山浩治、鈴木まほろ

#### 〔印刷・広報物〕

ポスター（B2判）200部、チラシ（A4判・両面）9,000部

## （エ）テーマ展「化石の水族館」

地質時代の海や湖にいた生物を中心とした化石の展示を行った。展示にあたっては、化石となった生物たちが生きていた時にどのような生活をしていたか（古生態）をわかりやすく伝えることを目的とし、体の化石だけでなく、生物の這い跡や巣穴など生活の痕跡が化石となったもの（生痕化石）も展示した。また、奥羽山脈を中心に岩手県の魚類化石の研究をした佐藤二郎氏標本の展示を併せて行った。

この展覧会はコロナウィルスの全国的な感染の拡大を受け、令和2年3月28日（土）に予定していた特別講演が5月3日（日）に延期された後、臨時休館に伴って中止となった。4月26日（日）の担当学芸員による日曜講座も同様である。展示解説会も「三密」を避け、コロナウィルスの感染拡大防止のため、予定されていた4回のうち2回（4月12日（日）、5月3日（日））を中止とした。

当展覧会の会期は、令和2年3月14日（土）より5月6日（水）までの54日間として始められたが、続いて開催される予定であった開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」の開催がコロナウィルスの影響により中止となったことで、令和2年8月23日（日）まで延長開催されることとなった。

会期：令和2年3月14日（土）～5月6日（水）（54日間） \*当初予定

8月23日（日）（163日間） \*5月における予定会期

会場：特別展示室

令和元年度中会期の来場者数：2,087人

〔展示内容〕

- 1章 原生代とカンブリア紀の水槽
  - A 海の中の楽園（先カンブリア時代エディアカラ紀）
  - B 革命の時代（カンブリア紀）
- 2章 オルドビス紀とシルル紀の水槽
  - C 浅瀬の社会（オルドビス紀）
  - D 熱帯の海（シルル紀）
- 3章 デボン紀の水槽
  - E 魚類たちの戦国時代（デボン紀）
- 4章 石炭紀・ペルム紀の水槽
  - F 超大陸と海の中（石炭紀・ペルム紀）
  - G 超大陸の水の中（石炭紀・ペルム紀）
- 5章 三畳紀・ジュラ紀の水槽
  - H 再生と繁栄の海（三畳紀・ジュラ紀）
- 6章 白亜紀大水槽
  - I は虫類の泳ぐ海（白亜紀）
- 7章 新第三紀の水槽
  - J 奥羽山脈の深海
- 8章 生痕化石の世界
  - K 化石から太古の動物の生活を読む
- その他 体験型展示
  - 化石のタッチ水槽（ハンズオンコーナー）
  - 塗り絵シールコーナー
  - 生痕化石を作ってみよう！
  - 三葉虫を走らせよう
  - 写真撮影コーナー

〔関連事業〕

- ・特別講演（県博日曜講座兼）[\*中止] 令和2年3月28日（土）13：30～15：00 講堂  
演題：「恐竜好き少年が魚類化石研究者になりました」  
講師：宮田真也氏（城西大学水田記念博物館学芸員）  
\*新型コロナウイルス感染拡大防止のため5月3日に延期・後に中止となった
- ・県博日曜講座 [\*中止] 令和2年4月26日（日）13：30～15：00 教室  
演題：「生命史をひも解くージュラ紀ー」  
講師：望月貴史（展覧会担当学芸員）  
\*新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により中止
- ・展示解説会 各回 14:30～15:00 特別展示室
  - ① 令和2年3月15日（日）
  - ② 3月29日（日）
  - ③ †4月12日（日）
  - ④ †5月3日（日）

† 新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月12日は解説会が中止、5月3日は臨時休館。

〔印刷物〕

ポスター B2版、カラー印刷、400部

リーフレット A4版両面（表：カラー印刷、裏：2色刷） 50,000部

図録 A4版 カラー印刷、32ページ、107部（配布用）、93部（販売用、売価1,320円）

（オ）三陸防災復興プロジェクト 2019 三陸ジオパーク ワクワクフェスタ  
国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム  
生命のれきし 一君につながるものがたりー

地球が誕生してから46億年の歴史において、生命がどのように生まれ、進化と絶滅を繰り返しながら今日の形となっていたのかを標本をとおして知る機会を提供した。

また、日本有数の地質学的多様性を誇る岩手県がその中でどのような立ち位置にあるのかを紹介し、展示を見た地元の方々に身近にある岩手の大地や自然に誇りを持っていただくことを目的に、「三陸ジオパーク ワクワクフェスタ」の「岩手の海とジオの魅力展」の一環として行ったものである。

会期：令和元年6月2日（日）～令和元年7月15日（月・祝）

開催日数 36日（2会場の合計）

会場：

（1）岩泉会場

ア. 場所：岩泉町小本津波防災センター 集会室兼多目的室

イ. 展示日程：令和元年6月2日（日）～16日（日） 実開催日数 15日

（2）大船渡会場

ア. 場所：大船渡市立博物館 多目的ホール

イ. 展示日程：令和元年6月22日（土）～7月15日（月・祝） 実開催日数 21日

入場者数：岩泉会場 792人

大船渡会場 1,176人

〔展示内容〕

第一章 「ちきゅう」と「せいめい」の誕生

第二章 大きな生き物が現れる

第三章 海の生き物の大繁栄

第四章 さかなたちの繁栄

第五章 地球が緑におおわれる！

第六章 動物たちの上陸作戦

第七章 は虫類の繁栄

第八章 ピンチのあとの大チャンス

第九章 わたしたち哺乳類はいつから？

第十章 ヒトの時代と環境変化

〔関連事業〕

・展示解説会 岩泉会場 ① 令和元年6月2日（日） ② 6月16日（日）

各回 11:00～11:30 14:00～14:30

大船渡会場 ① 令和元年6月30日(日) ② 7月15日(月・祝)

各回 11:00～11:30 14:00～14:30

・\*地質観察会 令和元年7月7日(日) 久慈市周辺地域

「久慈市周辺に見られる暁新統の地層と化石」

講師：堀内順治(東京学芸大学附属国際中等教育学校)

\*岩手県立博物館第77回地質観察会を兼ねる

## (カ) 合同移動展 岩手県文化振興事業団プレゼンツ 「文化・芸術が集うとき in 一関」

合同展～令和元年度岩手県立博物館移動展・第40回埋蔵文化財展

これまでに岩手県立博物館では、博物館から遠隔地に当たり来館機会に恵まれない地域を対象として、当館の貴重な所蔵品や開催地にゆかりのある所蔵品を展示・紹介する「岩手県立博物館移動展」を開催してきた。平成20年度からは、岩手県立埋蔵文化財センターとの合同展(岩手県立博物館移動展・埋蔵文化財展)という形態で実施され、さらに平成24年度からは(公財)岩手県文化振興事業団の4事業所(埋蔵文化財センター・岩手県立美術館・岩手県民会館・当館)が一堂に会し行う事業「岩手県文化振興事業団プレゼンツ」の一環として行われている。

今年度の移動展は、前年度同様、合同展であることを意識し、埋蔵文化財センター・当館の2事業所におけるそれぞれの展示資料を一つの会場スペースで展示した。これにより、各事業所が日常どのような資料を対象として扱い、どのような研究・公開を行っているのかを伝えることができた。

会期：令和元年11月29日(金)～12月1日(日) 開催日数3日

会場：一関文化センター

来場者数：573人

〔展示内容〕

展示総数 60点

考古 花泉町寺場遺跡ほか土偶 6点

生物 動物剥製標本(須川温泉採集のイヌワシ若鳥ほか)

一関市のイシガイ類貝殻、押し葉標本(須川岳のシダ植物ほか)など 計40点

地質 日本最古の植物・アンモナイト化石、薄衣礫岩など 計14点

歴史および民俗部門は、パネルのみの展示。

〔関連事業〕

展示解説会 令和元年12月1日(日) 11:00～12:00

## (キ) 巡回展「クマゲラの世界」

2014年度に好評を博したテーマ展「クマゲラの世界」で展示したA1サイズのクマゲラの写真を、リクエストが多かった奥州市牛の博物館にて巡回展として、当館では冬の特別展示として開催した。展示物は写真を中心とし、北海道産クマゲラの生態画像54枚と本州産クマゲラの生態・景観画像51枚の計105枚を再度、公開した。

奥州市牛の博物館では展示解説会を実施し、日本産キツツキ全種について及びクマゲラの形態学的特徴から、なぜ生木に縦に停止できるのか等を一般にもわかりやすく解説した。講演会も予定していたが、台風19号(令和元年東日本台風)の接近のため中止とした。以下に各会場の会期と関連イベントを列記する。

### 「クマゲラの世界」巡回展

会期：令和元年9月28日(土)～10月20日(日) 実開催日数20日

会場：奥州市牛の博物館別棟

主催：岩手県立博物館 奥州市牛の博物館 岩手県文化振興事業団 NPO 法人本州産クマゲラ研究会

展示解説会：令和元年9月29日(日)14:00～15:00 講師：藤井忠志(当館学芸員)

\*講演会：令和元年10月12日(土)14:00～15:30

\*台風19号の接近に伴い中止

### 「岩手県立博物館冬の特別展」

会期：令和元年11月2日(金)～令和2年1月5日(日) 実開催日数51日

会場：岩手県立博物館ミニプラザ

日曜講座：令和元年12月22日(日)13:30～15:00 講堂

演題：「クマゲラ・サンコウチョウ・岩手のライチョウ」

講師 藤井忠志(当館学芸員)



5. 事業の概要

(2) 教育普及活動

令和元年度は、教育普及活動として 30 件の事業をおこなった。講座・観察会としては、県博日曜講座、自然観察会、地質観察会、考古学セミナー、古文書入門講座を開催し、子供向け事業では、台風の影響で中止を余儀なくされた第 11 回「博物館まつり」で予定していた各種事業を 11 月 3 日の文化の日と 4 日に実施、両日とも多くの来館者をお迎えした。また、毎週日曜日には「たいけん教室～みんなでためそう～」を、第 2・第 3 土曜・日曜日には「チャレンジ!はくぶつかん」を実施した。9 月を除く毎月第 1 土曜日には、講堂にて「ミュージアムシアター」を上映し、土曜日の午後のひと時を楽しんでいただいた。

夏・冬休み期間中の特別企画としては、「ワードパズル」「子ども向け定時解説」を、今年度で 4 回目を数える「ナイトミュージアム」は、8 月に 2 日間にわたり実施、冬休みにはクリスマスイベントとして「ミュージアムコンサート」を開催した。今年度も「冬休みワクワク!ワークショップ」を年明けに開催し、子どもたちや保護者の皆様にご参加いただいた。この他、毎年 5 月の国際博物館の日に実施している「県博バックヤードツアー」も好評であった。

学習支援や社会教育事業としては、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用や教材貸し出し、学校への出前事業に対応するなど、充実した内容となった。

5. (2) 教育普及活動

ア. 開催事業

(ア) 展示付帯事業

表 5.(2)-1 令和元年度開催事業

■学芸員による展示解説会・講演会（展覧会／定時）					延べ 534 名
	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
1	4月6日	土	藺田貴弘	テーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし」展示解説会	20
2	5月4日	土祝	藺田貴弘	テーマ展「岩手の往来～道路のいま・むかし」展示解説会	16
3	6月2日	日	望月貴史	国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム 「生命のれきし 一君につながるものがたり」 岩泉会場	40 (2回実施)
4	6月16日	日	望月貴史	国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム 「生命のれきし 一君につながるものがたり」 岩泉会場	55 (2回実施)
5	6月30日	日	小山内透	テーマ展「古・岩手のクロガネ－発掘から見えてきた古代～中世の鉄生産」 展示解説会	9
6	6月30日	日	望月貴史	国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム 「生命のれきし 一君につながるものがたり」 岩泉会場	64 (2回実施)
7	7月15日	月祝	望月貴史	国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム 「生命のれきし 一君につながるものがたり」 岩泉会場	56 (2回実施)
8	7月21日	日	小山内透	テーマ展「古・岩手のクロガネ－発掘から見えてきた古代～中世の鉄生産」 展示解説会	2
9	8月3日	土	小山内透	テーマ展「古・岩手のクロガネ－発掘から見えてきた古代～中世の鉄生産」 展示解説会	3
10	8月4日	日	留畑昌一 (元釜石市鉄の歴史館館長、ほか)	テーマ展「古・岩手のクロガネ－発掘から見えてきた古代～中世の鉄生産」 たたら製鉄実演	121

	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
	日	祝			
11	9月23日	月祝	原田祐参	テーマ展「よろい・かぶと・かたなの世界」展示解説会	21
12	10月5日	土	原田祐参	テーマ展「よろい・かぶと・かたなの世界」子供向け解説会	15
13	10月20日	月	原田祐参	テーマ展「よろい・かぶと・かたなの世界」展示解説会	23
14	11月10日	日	原田祐参	テーマ展「よろい・かぶと・かたなの世界」子供向け解説会	6
15	11月17日	日	原田祐参	テーマ展「よろい・かぶと・かたなの世界」展示解説会	14
16	1月19日	日	丸山浩治 鈴木まほろ	共同展「被災資料再生の今～過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ～」 展示解説会	2
17	2月2日	日	兼平賢治 (東海大学准教授) ほか	共同展「被災資料再生の今～過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ～」 展示解説会	18
18	3月15日	日	望月貴史	テーマ展「化石の水族館」展示解説会	25
19	3月29日	日	望月貴史	テーマ展「化石の水族館」展示解説会	24

■共同展特別講演会 ※文化財科学〔丸山浩治〕担当 延べ43名

	期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
	日	祝			
1	2月2日	日	兼平賢治 (東海大学准教授)	「再生された近世文書にみる三陸の暮らし」	43

■解説員による定時解説 延べ533人

月	成立回数	参加者数	対応時間(分)
4月	9	21	835
5月	9	31	650
6月	6	24	430
7月	14	65	710
8月	22	242	830
9月	6	10	475
10月	12	16	1,005
11月	3	6	285
12月	7	23	505
1月	12	71	485
2月	4	7	390
3月	5	17	345
合計	109	533	6,945

\*平成25年度から毎日実施している。

■解説員による依頼解説(随時/常設) 延べ2168人

事業名	実施日	参加者数		総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室		団体数
				地質	考古	歴史	民俗	現勢生物	考古	歴史	民俗	地質	生物	
解説員による 依頼解説	4月	学校等	11	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	11
		一般	2	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2
	5月	学校等	85	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1
		一般	72	4	3	5	3	4	0	0	1	0	0	8

事業名	実施日	参加者数		総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室		団体数
				地質	考古	歴史	民俗	現勢生物	考古	歴史	民俗	地質	生物	
解説員による依頼解説	6月	学校等	47	2	3	3	2	3	0	0	1	0	0	3
		一般	41	8	7	6	4	4	1	1	1	0	0	8
	7月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	170	10	8	10	8	8	0	0	1	0	0	14
	8月	学校等	91	3	3	2	1	1	0	0	0	0	0	4
		一般	62	3	3	3	3	3	1	0	0	1	1	4
	9月	学校等	470	3	2	2	3	0	0	0	2	0	0	6
		一般	104	7	6	8	4	6	0	0	1	1	1	8
	10月	学校等	543	1	0	1	3	0	0	0	5	0	0	7
		一般	76	6	6	7	7	6	0	0	0	0	0	8
	11月	学校等	201	3	3	4	3	2	0	0	2	0	0	6
		一般	2	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	2
	12月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	47	2	2	3	1	1	0	0	0	0	0	3
	1月	学校等	67	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2
		一般	11	3	4	3	2	2	0	0	0	0	0	4
	2月	学校等	26	2	1	1	1	0	0	0	3	0	0	4
		一般	33	4	4	3	3	3	1	0	2	1	1	5
	3月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計		2,168	66	60	67	55	49	4	2	21	4	4	110	

■チャレンジ!はくぶつかん (全 54 回)

※学芸第三課〔金子昭彦〕担当

延べ 2297 名

回数	期日		当番	テーマ	参加者数	月別参加者総数	備考
1	4月13日	土	作成:近藤良子 当番:近藤良子、米田寛	ジオラマ	44	151	大人 18
2	4月14日	日			47		大人 21
3	4月20日	土			17		大人 7
4	4月21日	日			43		大人 18
5	5月11日	土	作成:濱田宏 当番:濱田宏、武田麻紀子	ふわふわ	22	162	大人 11
6	5月12日	日			62		大人 27
7	5月18日	土			36		大人 15
8	5月19日	日			42		大人 22
9	6月8日	土	作成:米田寛、 当番:米田寛、菅野誠喜	衣	40	210	大人 14
10	6月9日	日			39		大人 17
11	6月15日	土			55		大人 28
12	6月16日	日			76		大人 37
13	7月13日	土	作成:渡辺修二 当番:渡辺修二、藺田貴弘	鉄	35	240	大人 16
14	7月14日	日			62		大人 31
15	7月15日	月祝			32		大人 17
16	7月20日	土			28		大人 10
17	7月21日	日			83		大人 36

回数	期日		当番	テーマ	参加者数	月別参加者総数	備考
18	8月10日	土	作成：鈴木まほろ 当番：鈴木まほろ、金子昭彦	青	57	293	大人 24
19	8月11日	日			58		大人 28
20	8月12日	月祝			79		大人 39
21	8月17日	土			53		大人 22
22	8月18日	日			46		大人 20
23	9月14日	土	作成：山岸千人 当番：山岸千人、菌田貴弘	旅	19	254	大人 7
24	9月15日	日			41		大人 18
25	9月16日	月祝			42		大人 20
26	9月21日	土			38		大人 16
27	9月22日	日			54		大人 30
28	9月23日	月祝	60	大人 30			
29	10月12日	土	作成：武田麻紀子 当番：武田麻紀子、金子昭彦	ぴかぴか	34	190	大人 17
30	10月13日	日			中止		-
31	10月14日	月祝			72		大人 32
32	10月20日	土			30		大人 13
33	10月21日	日			54		大人 29
34	11月9日	土	作成：菅野誠喜 当番：菅野誠喜、藤井忠志	食	22	221	大人不明
35	11月10日	日			81		大人 37
36	11月16日	土			53		大人 24
37	11月17日	日			65		大人 34
38	12月14日	土	作成：望月貴史 当番：望月貴史、武田麻紀子	顔	31	156	大人 13
39	12月15日	日			53		大人 24
40	12月21日	土			35		大人 17
41	12月22日	日			37		大人 16
42	1月11日	土	作成：菌田貴弘 当番：菌田貴弘、菅野誠喜	住	32	212	大人 12
43	1月12日	日			70		大人 30
44	1月13日	月祝			19		大人 8
45	1月18日	土			39		大人 20
46	1月19日	日			52		大人 25
47	2月8日	土	作成：米田寛 当番：丸山浩治、藤井忠志	冬	26	119	大人 15
48	2月9日	日			37		大人 13
49	2月15日	月祝			15		大人 6
50	2月16日	日			41		大人 19
51	3月14日	土	作成：金子昭彦 当番：金子昭彦、米田寛	石	43	191	大人 20
52	3月15日	日			42		大人 20
53	3月21日	土			52		大人 23
54	3月22日	日			54		大人 25

※当館学芸員が毎月作成するワークシートを配布。(4月・7月・8月は「かんたんコース」と2種作成)

※今年度は23名の最優秀チャレンジャー(全12回に参加した皆勤賞、8回目1名、6回目2名、5回目1名、3回目1名、2回目7名、1回目11名)が誕生した。

■「ワードパズル」

※学芸第三課〔米田寛〕担当 延べ 348 人

	期日	シート作成者	テーマ	参加者数	備考
1	7月20日(土)～ 8月9日(金)	米田寛	かんたん	81	
			ふつう	125	
			むずかしい	74	
2	12月24日(火)～ 1月10日(金)	米田寛	かんたん	22	
			ふつう	28	
			むずかしい	18	

※当館学芸員作成のワードパズルの配布

■ナイトミュージアム～くらのやみの中から語りかける資料を探る～

※学芸第三課〔藺田貴弘〕担当 延べ 43 人

	期日		時間	講師・運営	参加者数	備考
1	8月9日	金	16:30 ～ 17:30	展示解説：山岸千人(地質)、渡辺修二・鈴木まほろ(生物)、 金子昭彦(考古)、原田祐参・武田麻紀子(歴史)、 米田寛(民俗)	25	
2	8月10日	土	16:30 ～ 17:30	ツアーガイド：木戸口俊子・濱田宏・近藤良子・鈴木まほろ・ 渡辺修二・丸山浩治 サポート：協栄テックス 連絡調整：藺田貴弘・望月貴史	18	

※平成 28 年度より実施。

■展示資料解説「けんぱくものしりシート」

※学芸第三課〔武田麻紀子・解説員〕担当

	発行日		テーマ	シート作成者 (当館解説員)
1	4月6日	土	かでぎり	齋藤菜穂美
2	5月4日	土	カワシンジュガイ	石川依子
3	6月1日	土	ビー玉	小田嶋麻記子
4	7月6日	土	エドモントサウルスの産状	吉村あすか
5	8月3日	土	旧石器時代	畠香奈子
6	9月14日	土	刀装具	草島千香子
7	10月5日	土	電気洗濯機	三河綾乃
8	11月2日	土	ルリイトトンボ	中村紫保
9	12月7日	土	けん玉	那須優香子
10	1月4日	土	ユダクサカメ	川崎智子
11	2月1日	土	縄文時代の耳飾り	齋藤菜穂美
12	3月7日	土	民間備荒録	伊藤敦子

※当館解説員が毎月作成している展示資料解説カードを配布するとともに、当館 HP に掲載。

5. (2) 教育普及活動 ア. 開催事業

(イ) 教育普及事業

表 5.(2)-2 教育普及事業

■文化講演会 ※歴史部門〔原田祐参〕担当 延べ60人

	期日		講師	演題	備考
1	11月3日	日	渡邊妙子 (公益財団法人佐野美術館 理事長)	「刀工の業～助真を中心に～」	

■北上川水源地域セミナー [1回] ※学芸第二課〔木戸口俊子〕担当 延べ60人  
※北上川ダム統合管理事務所共催

	期日		講師	演題	備考
1	12月15日	日	近藤良子	北上川の伝説～川とあの世と洪水伝説～	

※【平成25年度～】北上川ダム統合管理事務所並びに北上川「流域圏」フォーラム実行委員会の共催によるセミナー。当館は会場を提供し当日の運営補助を担当した。当館職員が部門持ち回りで講師を務める。(第7回：民俗部門)

■岩手県立博物館友の会 話のサロン ※学芸第二課〔木戸口俊子〕担当 延べ132人

	期日		講師	演題	参加者数	備考
1	5月25日	土	松田忠昭 (八幡平地区パークボランティア連絡協議会「ヒナザクラ会」会員)	八幡平よもやま話	42	
2	9月22日	日	原田祐参	大名と甲冑～盛岡藩を中心に～	53	日曜講座を兼ねる
3	2月15日	土	片山千賀志 (山楽会会員)	いわての野生ラン	37	

■県博日曜講座 [全21回] ※学芸第三課〔濱田 宏〕担当 延べ900人

	期日		講師	テーマ	参加者数	備考
1	4月28日	日	西川幸一 (宮古盛岡横断道路新区界トンネル工事鹿島・東急特定建設工事企業共同体工事事務所所長)	岩手の道をつなぐ！宮古盛岡間最大の難所区界時の新しいトンネルと身近な土木	89	テーマ展開関連講座
2	5月12日	日	金子昭彦	卑弥呼のころの岩手 -岩手の弥生時代-	67	
3	5月26日	日	丸山浩治	遺跡にみる十和田 10世紀噴火の影響-火砕流・火山泥流・降灰-	61	
4	6月9日	日	濱田宏	ストーンサークルの謎 -縄文時代のモニュメント-	65	
5	6月23日	日	武田麻紀子	吉田松陰が認めた男-那珂栢楼の思想-	39	
6	7月14日	日	小山内透	岩手の古代～中世鉄生産の系譜	53	テーマ展開関連講座
7	7月28日	日	能登谷宣康 (公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部)	古代東北の鉄生産-陸奥国南部を中心に-	46	テーマ展開関連講座
8	8月11日	日	望月貴史	生命史をひも解く-三畳紀-	34	
9	8月25日	日	近藤良子	生き物供養碑-生き物の魂を弔う-	26	

	期日		講師	テーマ	参加者数	備考
10	9月22日	日	原田祐参	大名と甲冑～盛岡藩を中心に～	53	企画展関連講座
11	10月6日	日	須藤茂樹 (四国大学文学部)	戦国武将と変わり兜	40	企画展関連講座
12	10月27日	日	藺田貴弘	岩手の往来～夕顔瀬橋～	41	
13	11月10日	日	鈴木まほろ	早池峰山の植物とニホンジカ	71	
14	11月24日	日	米田寛	こけしの魅力～秋田木地山こけしを中心に～	17	
15	12月8日	日	藤井忠志	クマゲラ・サンコウチョウ・岩手のライチョウ	74	
16	1月12日	日	木戸口俊子	いわての操り人形	24	
17	1月26日	日	山岸千人	ダムのお仕事	21	
18	2月9日	日	渡辺修二	岩手のトンボ	45	
19	2月23日	日	菅野誠喜	陸前高田のれきし散歩	34	
20	3月8日	日	高橋廣至	雑学のススメ	—	新型コロナ対策のため延期後中止
21	3月28日	日	宮田真也 (城西大学水田記念 博物館学芸員)	恐竜好きの少年が魚類化石研究者になりました	—	新型コロナ対策のため延期後中止

※当館学芸員もしくは外部講師（敬称略）による講演。

■ 県博バックヤードツアー ※学芸第三課〔米田 寛〕担当 延べ30人

	期日		講師	概要	参加者数	備考
1	5月18日	土	当館学芸員	文化財レスキューコース（午前・午後の2回）	13	事前申込制
2				自然コース	8	
3				歴史コース	9	

※【平成16年度～】5月18日の「国際博物館の日」記念事業として実施。

■ 古文書入門講座〔全6回〕 ※歴史部門〔藺田貴弘・武田麻紀子〕担当 延べ73人

	期日		講師等	テキスト	参加者数	備考
1	6月8日	土	武田麻紀子	平泉往来・子供早学問	13	
2	6月9日	日	武田麻紀子	平泉往来・子供早学問	12	
3	6月15日	土	武田麻紀子	平泉往来・子供早学問	13	
4	6月16日	日	藺田貴弘	平泉往来・子供早学問	12	
5	6月22日	土	藺田貴弘	平泉往来・子供早学問	12	
6	6月23日	日	藺田貴弘	平泉往来・子供早学問	11	

■ ミュージアムコンサート ※学芸第三課〔藺田貴弘〕担当 延べ136人

	期日		概要・所属等	備考
1	12月21日	土	盛岡第三高等学校吹奏楽部によるコンサート	

※昨年度に引き続き、冬期に1回のみ開催

■考古学セミナー

※考古部門〔小山内透〕担当 延べ68人

期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	7月28日 日	能登谷宣康 (公財)福島県文化振興財団 遺跡調査部)	古代東北の鉄生産 ー陸奥国南部を中心に ー	46	日曜講座を兼ねる
2	10月26日 土	佐々木清文	八戸藩葛巻商人の鉄山経営	22	平庭鉄山見学会は中止

■自然観察会〔全2回〕

※生物部門〔鈴木まほろ・渡辺修二〕担当 延べ35人

期日		講師等	テーマ	参加者数	備考
1	7月28日 日	渡辺修二	第77回自然観察会：滝沢市相ノ沢キャンプ場	13	
2	10月5日 土	鈴木まほろ	第78回自然観察会：早池峰山河原坊の植物観察	22	

■地質観察会〔全2回〕

※地質部門〔山岸千人・望月貴史〕担当 延べ35人

期日		講師等	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	7月7日 日	堀内順治 (東京学芸大学国際中 等教育学校)	第77回地質観察会：久慈市周辺に見られる暁 新統の地層と化石(野田村・久慈市)	35	
2	11月3日 日	永広昌之 (東北大学総合学術博 物館)	第78回地質観察会：熱帯の海の生物たち (陸前高田市)	中止	林道崩壊のため中止 申し込み32名

■博物館館園実習〔全7日〕

※学芸第三課〔金子昭彦〕担当 受講者9人

期日		講師	演題	受講者数	備考
1	8月17日 土	高橋廣至	実習にあたって	9	
2		濱田宏	岩手県立博物館概要説明		
3		実習担当	施設見学		
4		小山内透	講義「地方博物館の使命と役割」		
5		花山智行	博物館管理業務の実務		
6	8月18日 日	小山内透	展示の実務(企画展を例に・考古)	9	
7		鈴木まほろ	博物館資料管理の実務		
8		丸山浩治	環境保全・資料保存の実務(文化財科学)		
9		金子昭彦他	教育普及・事業広報の実務		印刷物発送仕分け
10		丸山浩治	環境保全・資料保存の実務(文化財科学)		
11	8月20日 火	山岸千人	事業広報の実務(概説)	9	
12		米田寛他	教育普及・事業広報の実務		印刷物発送仕分け
13		解説員	展示解説の実務		
14		米田寛他	教育普及・事業広報の実務		印刷物発送仕分け
15	8月21日 水	藤井忠志	展示の実務(概説)	9	
16		米田寛	展示・管理業務の実務		ケース・演示具組立て およびメンテナンス
17		鈴木まほろ 渡辺修二 藤井忠志	展示・資料整理の実務(生物)		



	期日		講師	演題	受講者数	備考
18	8月22日	木	藺田貴弘 菅野誠喜 武田麻紀子 原田祐参	展示・資料整理の実務(歴史)	9	
19			木戸口俊子 近藤良子 米田寛	展示・資料整理の実務(民俗)		
20	8月23日	金	金子昭彦	展示・資料整理の実務(考古)	9	
21			山岸千人 望月貴史	展示・資料整理の実務(地質)		
22	8月24日	土	金子昭彦	展示・資料整理の実務(考古)	9	
23			藺田貴弘 菅野誠喜 武田麻紀子 原田祐参	展示・資料整理の実務(歴史)		
24			濱田宏	実習終了にあたって		
25			実習担当	実習ノートのまとめ		

※今年度は、岩手大学(1名)、駒沢大学(1名)、盛岡大学(6名)、女子美術大学(1名)から合計9名の実習生を受け入れた。

#### ■文化財等取扱講習会

学芸第二課〔木戸口俊子〕担当

	期日		講師	内容	参加人数	備考
1	—	—	当館学芸員 他	—	—	本年度開催せず

#### ■教員のための博物館の日

※学芸第一課〔渡辺修二〕担当 参加 38人

	期日		講師	内容	参加人数	備考
1	8月7日	水	望月貴史 渡辺修二 武田麻紀子	地質分野：アンモナイトのストラップづくり 生物分野：骨から分かる生物の進化 人体骨格模型組み立て体験 歴史分野：寺子屋の学び体験	38	

※学校との連携を深める目的で、平成28年度から実施している。

#### ■新車大集合

※学芸第三課〔濱田 宏〕担当 見学 367人

	期日		総括	見学者数	備考
1	7月27日	土	*参加5社/22台	367	岩手県文化振興事業団自主事業

\*レクサス盛岡/岩手トヨペット/岩手ニッサン/岩手ダイハツ/岩手スバル

#### ■ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館

※学芸第三課〔濱田 宏〕担当 見学 672人

	期日		総括	見学者数	備考
1	10月27日	日	旧車/クラシックカー 12台	672	岩手県文化振興事業団自主事業

■第11回岩手県立博物館まつり

※学芸第三課〔米田寛・菅野誠喜〕担当

予定していた10月13日(日)の博物館まつりは、12日から13日未明にかけて岩手県に接近した台風19号の影響により中止とした。代わりに、11月3日(日・祝)・4日(月・振)の両日、10月13日(日)の博物館まつりで予定していたプログラムの一部を実施した。参加者延べ1,904人

■MORIOKA 神保町ヴンダーカンマーの共催

※学芸第二課〔鈴木まほろ〕担当

教育普及活動として、第2回 MORIOKA 神保町ヴンダーカンマーを共催した。本事業は盛岡ヴンダーカンマー実行委員会が主催する自然史科学と関連アートの普及イベントである。県内外の博物館等施設やアート作品の作家が出展者として参加し、生物・鉱物・化石標本の展示や、生物・鉱物・化石等をモチーフにしたアート作品の制作ワークショップを実施し、あわせて作品やグッズ等の販売を行った。令和2年2月1日(土)・2日(日)は岩手県公会堂、2月15日(土)・16日(日)は当館グランドホールで実施し、それぞれ450人と680人の参加があった。大阪芸術大学准教授の小田隆氏の協力により、15日にはマメンキサウルスのライブドローイング、16日には恐竜復元画制作教室を実施した。延べ1,130人が会場を訪れた。

■たいけん教室～みんなのためそう～〔計51回〕

※学芸第三課〔解説員〕

延べ1,791人

	期日		講師	テーマ	参加者数	内訳
1	4月7日	日	解説員	スライムであそぼう①	50	子ども25名
2	4月14日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう①	39	子ども25名
3	4月21日	日	解説員	まが玉アクセサリー①	36	子ども27名
4	4月28日	日	解説員	こいのぼりづくり	36	子ども24名
5	5月5日	日	解説員	手づくり万華鏡①	50	子ども21名
6	5月12日	日	解説員	化石のレプリカ①	51	子ども26名
7	5月19日	日	解説員	砂絵①	46	子ども24名
8	5月26日	日	解説員	チャグチャグ馬コづくり①	31	子ども19名
9	6月2日	日	解説員	チャグチャグ馬コづくり②	37	子ども11名
10	6月9日	日	解説員	草花のそめもの	32	子ども9名
11	6月16日	日	解説員	お絵かきはんこ①	45	子ども24名
12	6月23日	日	解説員	ばねのキツツキおもちゃ	43	子ども25名
13	6月30日	日	解説員	スライムであそぼう②	51	子ども26名
14	7月7日	日	解説員	ミニさんさだいこ①	47	子ども23名
15	7月14日	日	解説員	ミニさんさだいこ②	49	子ども24名
16	7月21日	日	解説員	土器づくり	44	子ども24名
17	7月28日	日	解説員	ミニさんさだいこ③④	85	子ども20名
18	8月4日	日	解説員	ちぎり絵のうちわ①②	55	子ども25名
19	8月11日	日	解説員	天然石のフォトフレーム①②	85	子ども23名
20	8月18日	日	解説員	化石のレプリカ	43	子ども23名
21	8月25日	日	解説員	お月見かざり	21	子ども25名
22	9月15日	日	解説員	3Dメガネで万華鏡	36	子ども24名
23	9月22日	日	解説員	まが玉アクセサリー②	48	子ども8名
24	9月29日	日	解説員	手づくり万華鏡②	25	子ども7名
25	10月6日	日	解説員	カラフルクモづくり	47	子ども25名
26	10月13日	日	解説員	【博物館まつり】	—	中止
27	10月20日	日	解説員	葉っぱのカラフルカード	10	子ども14名
28	10月27日	日	解説員	化石のレプリカ③	14	子ども19名
29	11月3日	日	解説員	砂絵②	48	子ども25名
30	11月10日	日	解説員	ペーパーかぶと	23	子ども24名

	期日		講師	テーマ	参加者数	内訳
31	11月17日	日	解説員	スライムであそぼう③	53	子ども25名
32	11月24日	日	解説員	松ぼっくりのX'masツリー①	53	子ども24名
33	12月1日	日	解説員	松ぼっくりのX'masツリー②	42	子ども22名
34	12月8日	日	解説員	まゆで干支づくり(子)①	48	子ども25名
35	12月15日	日	解説員	かんたん門松	45	子ども20名
36	12月22日	日	解説員	まゆで干支づくり(子)②	43	子ども18名
37	1月5日	日	解説員	みずきだんご	36	子ども25名
38	1月12日	日	解説員	たこづくり	43	子ども25名
39	1月19日	日	解説員	木のこまの絵つけ	37	子ども13名
40	1月26日	日	解説員	オリジナル卵をつくろう②	23	子ども18名
41	2月2日	日	解説員	化石のレプリカ④	33	子ども25名
42	2月9日	日	解説員	土偶づくり	48	子ども9名
43	2月16日	日	解説員	おひなさまづくり	28	子ども17名
44	2月23日	日	解説員	スライムであそぼう④	45	子ども25名
45	3月1日	日	解説員	お絵かきはんこ②	-	新型コロナウイルス対策のため中止
46	3月8日	日	解説員	アンモナイトの消しゴムづくり	-	新型コロナウイルス対策のため中止
47	3月15日	日	解説員	手づくり万華鏡③	-	新型コロナウイルス対策のため中止
48	3月22日	日	解説員	天然石のフォトフレーム③	-	新型コロナウイルス対策のため中止
49	3月29日	日	解説員	ウォータードームづくり	-	新型コロナウイルス対策のため中止

※【昭和56年度～】当館解説員による主に小学生対象のワークショップで、定員はプログラムごとに20～30名の範囲で設定している。平成28年度から、参加者に材料費を負担していただいている。

■冬のワクワク！ワークショップ ※学芸第三課〔武田麻紀子・解説員〕担当 延べ113人

	期日		講師	プログラム	参加者数	備考
1	1月11日	土	望月貴史・解説員	化石のレプリカづくり	113	

※【平成24年度～】幼児～小学生向けワークショップ。今年度は1プログラムで2種類を用意した。

■冬の写生会 ※総務課〔小野寺聡美〕担当 28作品

	期日		概要	参加者数	備考
1	12月14日(土)～ 1月13日(月祝)		展示資料やグランドホールからの岩手山を描く	-	
2	1月18日(土)～ 2月9日(日)		作品の展示	-	

※【平成18年度～】館内からの景色やマメンキサウルス等の展示資料を描いた作品を館内に掲示。

■ミュージアムシアター [全11回] ※学芸第三課〔菅野誠喜〕担当 延べ156人

	期日		運営	内容	参加人数	備考
1	4月6日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：濱田・菅野	①三びきの子ぶたの交通安全 ②あの時「ボク」は自転車で.. ③ねぎぼうずのあさたろう 巻の三 嘘つき小僧すず吉、村を守った秘密箱	16	大人7 子供9
2	5月4日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：米田	①ぞくぞく村のオバケたち ②ちびっこおぼけゲー・スー・ピー	55	大人27 子供2

	期日		運営	内容	参加人数	備考
3	6月1日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：金子・菅野	①南部鉄器 ②県政ニュース 昭和60年この一年 ③県政ニュース 昭和55年完成した県立博物館 ④ふるさと岩手	5	大人5
4	7月6日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：藪田	アテルイ	6	大人5 小人1
5	8月3日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：米田・武田	ぞう列車がやってきた	13	大人10 小人3
6	10月5日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリーボランティア「シネマ友の会」 運営：金子	二宮金次郎物語	11	大人11
7	11月2日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：濱田	アンダンテ～稲妻の旋律～	13	大人13
8	12月7日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：藪田	①すてきなコンサート クマの おいしゃさん ②クリスマスのおくりもの ③神様がくれたクリスマスツリー ④大男とクリスマスツリー ⑤ミッキーマウスのメリークリスマス	26	大人10 小人16
9	1月4日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：武田	MARCO 母をたずねて三千里	1	大人1
10	2月1日	土	映写：中央地域視聴覚ライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」 運営：藪田	ホーム・スイートホーム	10	大人10
11	3月7日	土	-	-	-	新型コロナウイルス対策のため中止

※【平成14年度～】盛岡教育事務所中央地域視聴覚ライブラリーとの共催による映画会。映写は16ミリ映写機操作技術講習会修了証を有するライブラリー映写ボランティア「シネマ友の会」が担当した。

#### ■ 県博出前講座

※学芸第三課〔原田祐参〕担当 延べ461人

	期日	派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	5月27日	月	武田麻紀子	岩手県立平舘高等学校	日本の装束の歴史	5
2	6月18日	火	藪田貴弘	西松園ひまわりクラブ (責任者：清水恒男)	岩手の往来～道路のいま・むかし～	23
3	6月24日	月	木戸口俊子 近藤良子	岩手県立遠野高等学校	拓本のとり方	11
4	8月9日	金	渡辺修二 鈴木まほろ	奥州市立水沢南中学校	自然観察	19
5	8月16日	金	渡辺修二	岩手県立久慈高等学校 自然科学部	昆虫観察	8
6	9月4日	水	渡辺修二	盛岡市立太田小学校	水生昆虫観察	20
7	10月28日	月	近藤良子	岩手県立前沢高等学校	修学旅行事前学習	60
8	11月29日	金	近藤良子 米田寛	盛岡市立大新小学校	昔の暮らし	81
9	12月4日	水	望月貴史	岩手県立盛岡となん支援学校	岩手の化石と歴史	15
10	12月17日	火	近藤良子 米田寛	盛岡市立北厨川小学校	昔の暮らし	50

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
11	1月23日	木	近藤良子 米田寛	八幡平市立柏台小学校	昔のくらし	10	
12	2月4日	火	木戸口俊子 近藤良子 米田寛	滝沢市立滝沢中央小学校	昔のくらし	94	
13	2月14日	金	近藤良子 原田祐参 米田寛	盛岡市立上田小学校	昔のくらし	65	

※当館が講師派遣に係る実費を負担したもの

## 5. (2) 教育普及活動 ア. 開催事業

### (ウ) 講演会・講座に係る職員派遣

表 5.(2)-3 講演会・講座に係る職員派遣 ※学芸第三課〔原田祐参〕担当 延べ731人

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
1	4月29日	月	鈴木まほろ	住田町教育委員会	森の達人講座 草花編	23	種山森林公園
2	5月11日	日	鈴木まほろ	深沢紅子野の花美術館	中津川自然散策	12	中津川上の橋周辺
3	7月2日	火	鈴木まほろ	岩手大学人文社会科学部	岩手大学博物館実習 -	10	岩手大学共通講義棟
4	7月9日	日	鈴木まほろ	岩手大学人文社会科学部	岩手大学博物館実習	10	岩手大学共通講義棟
5	7月14日	日	鈴木まほろ	金ケ崎生物多様性支援隊	ランの話	12	千貫石地区公民館
6	7月19日	金	小山内透	盛岡の歴史を語る会	発掘から見えてきた岩手の古代～中世鉄生産の系譜	100	盛岡市総合福祉センター
7	7月27日	土	渡辺修二	こども食堂スマイル	自然観察会	30	
8	8月4日	日	鈴木まほろ	大津波プロジェクト	東日本大震災における岩手県の自然史標本レスキュー	100	別府大学
9	8月4日	日	渡辺修二	滝沢市環境パートナーシップ会議	キッズ観察会	13	滝沢市穴口木賊川遊水池予定地
10	8月31日	土	金子昭彦	盛岡市西部公民館	遮光器土偶の秘密	42	盛岡市西部公民館
11	9月23日	月	鈴木まほろ	日本学術会議自然史・古生物学分科会[学術資料標本散逸問題検討WG]事務局堀利栄(愛媛大学教授)	日本地質学会セッション「大学・博物館における学術標本の未来」における招待講演「大学と博物館の生物標本管理に関するアンケート調査」	70	山口大学
12	11月2日	土	鈴木まほろ	金ケ崎町生活環境課	金ケ崎町生活環境フェア講演「金ケ崎町の生物多様性について」	60	金ケ崎町中央生涯学習センター
13	12月7日	土	米田寛	滝沢市埋蔵文化財センター	東北部の古代赤彩土器～奈良時代の赤彩土器を中心に～	60	滝沢市埋蔵文化財センター
14	12月14日	土	小山内透	岩手大学平泉文化研究センター・山田町教育委員会	山田町・岩手大学歴史講演会「岩手沿岸部における古代・中世鉄生産」	100	山田町中央公民館
15	1月17日	金	丸山浩治	岩手県農村振興技術連盟	令和元年度岩手県農村振興技術連盟農政研修会「10世紀の東北地方を襲った巨大噴火」	94	岩手県土地改良会館

	期日		派遣職員	依頼者	演題・イベント名ほか	参加者数	備考
16	1月18日	土	鈴木まほろ	岩手県勤労者山岳連盟	第36回岩手県登山者自然保護集会「早池峰山の植物とニホンジカの行動調査」	26	いわて生協ベルフ仙北
17	1月26日	日	望月貴史	国立科学博物館	文化庁委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」総括シンポジウム	55	国立科学博物館上野本館
18	2月18日	火	鈴木まほろ	大津波プロジェクト	水濡れした押し葉標本の応急処置	50	香川県立ミュージアム

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担、もしくは共同プロジェクトとして実施したもの。

## 5.(2) 教育普及活動

### イ. 学校教育との連携

#### (ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記の通りである。合計で80校(昨年93校)、3,701人(昨年3,909人)が来館した。学習利用での来館者数・来校数とも前年度に比べ減少した。

表 5.(2)-4 令和元年度 学習利用状況一覧

#### 保育園等

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	6月6日	岩手県	保	紫波町立彦部児童館	親子遠足	3	7	10
2	6月6日	岩手県	保	一方井保育所	親子遠足	5	26	31
3	6月7日	岩手県	保	おおぞら村一番地保育園	遠足	15	88	103
4	6月28日	岩手県	保	エトワール保育園	親子遠足	4	20	24
5	8月20日	岩手県	保	MH ナーサリー	園外学習	3	19	22
6	1月21日	岩手県	保	わかば保育園	園外学習	2	18	20
7	1月25日	岩手県	保	わかば保育園	園外学習	3	4	7
計 7 校					小計	35	182	217

#### 幼稚園

	日時	都道府県	区分	学校名	内容	引率	生徒	合計
1	5月10日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	5	38	43
2	5月29日	岩手県	幼	スコーレ幼稚園	遠足	8	138	146
3	6月14日	岩手県	幼	めぐみ幼稚園	園外学習	3	19	22
4	9月20日	岩手県	幼	都南幼稚園	見学	9	89	98
5	10月1日	岩手県	幼	やよい幼稚園	遠足	4	51	55
6	10月4日	岩手県	幼	のぞみ子ども園	遠足	15	93	108
7	10月9日	岩手県	幼	青山幼稚園	遠足	13	82	95
8	10月16日	岩手県	幼	緑が丘幼稚園	園外学習	2	11	13
9	1月30日	岩手県	幼	盛岡白百合学園幼稚園	見学(園外学習)	3	16	19
10	2月26日	岩手県	幼	学校法人川村学園 青葉幼稚園	卒園遠足	6	67	73
計 10 校					小計	68	604	672

小学校

	日 時	都道府県	区分	学 校 名	内 容	引率	生徒	合計
1	5月23日	宮城県	小	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	4	37	41
2	6月6日	宮城県	小	仙台市立南光台小学校	修学旅行	7	118	125
3	6月7日	岩手県	小	宮古市立田老第一小学校	修学旅行	3	17	20
4	6月7日	岩手県	小	盛岡市立北厨川小学校	教科(社会科)	3	51	54
5	6月7日	岩手県	小	葛巻町立小屋瀬小学校	見学	3	8	11
6	6月13日	宮城県	小	仙台市立泉ヶ丘小学校	修学旅行	7	44	51
7	6月25日	岩手県	小	岩泉町立小川小学校	校外学習	5	14	19
8	8月23日	岩手県	小	陸前高田市立広田小学校	見学	6	38	44
9	8月28日	岩手県	小	岩泉町立門小学校	見学(校外学習)	12	57	69
10	9月11日	岩手県	小	盛岡市立北松園小学校	見学	2	39	41
11	9月12日	宮城県	小	気仙沼市立階上小学校	学習旅行	4	34	38
12	9月12日	宮城県	小	大崎市立敷玉小学校	修学旅行	5	32	37
13	9月18日	岩手県	小	滝沢市立滝沢小学校	社会科	9	128	137
14	9月20日	岩手県	小	盛岡市立緑が丘小学校	遠足	12	110	122
15	9月26日	青森県	小	青森市立古川小学校	修学旅行	5	26	31
16	9月27日	岩手県	小	盛岡市立津志田小学校	校外学習	5	128	133
17	10月1日	岩手県	小	月が丘小学校	校外学習	3	54	57
18	10月4日	岩手県	小	滝沢市立滝沢第二小学校	社会科	7	80	87
19	10月8日	岩手県	小	青山小学校	社会科見学	5	117	122
20	10月11日	岩手県	小	盛岡市立東松園小学校	理科・社会科	2	32	34
21	10月25日	岩手県	小	滝沢市立鶴飼小学校	社会科	7	120	127
22	11月6日	岩手県	小	佐比内小学校	校外学習	2	8	10
23	11月20日	岩手県	小	陸前高田市立横田小学校	校外学習	2	15	17
24	11月20日	岩手県	小	盛岡市立洪民小学校	社会科見学	4	47	51
25	11月22日	岩手県	小	盛岡市立松園小学校	見学(校外学習)	3	45	48
26	11月29日	岩手県	小	滝沢市立滝沢東小学校	見学(校外学習)	3	45	48
27	1月24日	岩手県	小	岩手町立沼宮内小学校	社会科	2	45	47
28	2月6日	岩手県	小	八幡平市立平笠小学校	教科(社会科)	1	5	6
29	2月18日	岩手県	小	東松園小学校	教科(社会科)	2	27	29
30	2月21日	岩手県	小	盛岡市立生出小学校	社会科見学	2	6	8
計 30校					小計	137	1527	1664

中学校

	日 時	都道府県	区分	学 校 名	内 容	引率	生徒	合計
1	4月23日	岩手県	中	葛巻町立江刈中学校	校外学習	3	10	13
2	4月24日	岩手県	中	久慈市立長内中学校	校外学習	7	74	81
3	4月25日	宮城県	中	栗原市立志波姫中学校	校外学習	3	22	25
4	5月9日	岩手県	中	盛岡市立黒石野中学校	遠足	2	2	4
5	5月10日	秋田県	中	横手市立横手北中学校	学習旅行	7	103	110
6	5月10日	秋田県	中	平鹿中学校	学習旅行	6	79	85
7	6月22日	岩手県	中	盛岡中央高等学校附属中学校	校外学習	1	7	8
8	6月27日	岩手県	中	花巻市立東和中学校	校外学習	5	76	81
9	8月2日	岩手県	中	奥州市立江刺第一中学校	部活動	2	17	19
10	8月9日	岩手県	中	奥州市立水沢南中学校	研修	2	17	19

	日 時	都道府県	区分	学 校 名	内 容	引率	生徒	合計
11	9月19日	岩手県	中	田野畑村立田野畑中学校	研修	3	22	25
12	9月26日	秋田県	中	仙北市立神代中学校	校外学習	4	27	31
13	9月26日	岩手県	中	陸前高田市立高田東中学校	学習旅行	3	29	32
14	10月2日	岩手県	中	西和賀町立湯田中学校	見学	3	22	25
15	10月17日	東京都	中	桐朋中学校	修学旅行	2	48	50
16	10月17日	岩手県	中	盛岡市立下小路中学校	職場体験見学	1	4	5
計 16 校					小計	54	559	613

#### 高等学校

	日 時	都道府県	区分	学 校 名	内 容	引率	生徒	合計
1	5月21日	岩手県	高	岩手県立住田高等学校	校外学習	14	88	102
2	5月21日	岩手県	高	岩手県立遠野緑峰高等学校	校外学習	4	53	57
3	5月21日	岩手県	高	岩手県立平館高等学校	校外学習	5	43	48
4	5月21日	岩手県	高	岩手県立岩谷堂高等学校	校外学習	8	100	108
5	7月2日	宮城県	高	聖ウルスラ学院英智高等学校	遠足	7	100	107
6	7月2日	岩手県	高	盛岡第四高等学校	部活動	1	2	3
7	11月13日	岩手県	高	岩手県立久慈東高等学校	研修 (美術部の活動)	1	15	16
8	11月26日	岩手県	高	岩手県立雫石高等学校	総合的な学習	7	23	30
9	11月28日	岩手県	高	岩手県立遠野緑峰高等学校	研修	2	5	7
計 9 校					小計	49	429	478

#### 大学・専門学校・専修学校等

	日 時	都道府県	区分	学 校 名	内 容	引率	生徒	合計
-	-	-	-	-	-	-	-	-
計 0 校					小計	0	0	0

#### 支援学校等

	日 時	都道府県	区分	学 校 名	内 容	引率	生徒	合計
1	7月17日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	世界史	1	2	3
2	7月30日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	社会科	1	1	2
3	8月21日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	世界史	1	2	3
4	10月3日	岩手県	特	岩手県立宮古恵風支援学校	宿泊学習	10	13	23
5	11月12日	岩手県	特	岩手県立盛岡となん支援学校	見学(社会科)	3	3	6
6	11月22日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	教科(社会科)	4	5	9
7	2月12日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校	見学(校外学習)	2	1	3
8	2月18日	岩手県	特	岩手県立盛岡青松支援学校(中学部)	見学(校外学習)	4	4	8
計 8 校					小計	26	31	57
合計 80 校					合計(人)	369	3332	3701



令和元年度 県別学習利用状況

区分	県内	秋田	宮城	青森	他	合計 (校)
保	7					7
幼	10					10
小	24		5	1		30
中	11	3	1		1	16
高	8		1			9
大	0					0
特	8					8
合計	68	3	7	1	1	80

※下見を含まない

5.(2) 教育普及活動 イ. 学校教育との連携

(イ) 教材貸出

昨年度は5件24点の貸出を行ったが、今年度は6件77点の貸出を行った。内訳は下のとおりである。教育機関の中では小学校への貸出が2件、中学校2件、支援学校1件(計5件)、他は県の芸術文化協会であった。小学校「社会科」の「昔の道具とくらし」で活用が可能な炭火アイロンや電話機、洗濯板、こねばち、ランプ、そろばん、つまごなどの民俗資料、中学校では社会科で縄文土器、大型土偶の模造品、縄文時代の石器類、黒曜石や頁岩の破片、標本(クジャクヤママユ他)胴乱、展翅板、支援学校では岩石・鉱物類、植物・動物の化石標本、芸術文化協会ではヨーヨー、板返し、おはじき、メンコ、あやとりなど昔懐かしい遊びを体験できるものの貸出があったが、この傾向は今年度も同様であった。

表 5.(2)-5 令和元年度の教材貸出一覧

貸出日	貸出先	点数	資料
8月23日(金)	盛岡市立松園中学校	26	縄文土器(3) 縄文土器片(10) 縄文時代の石器類(10) 大型土偶模造品 黒曜石破片 頁岩破片
10月5日(土)	(一社) 岩手県芸術文化協会	10	ヨーヨー(2) 板返し(2) おはじき(2) メンコ(2) あやとり(2)
12月4日(水)	岩手県立盛岡となん支援学校	3	岩石・鉱物類 植物化石標本(10種) 動物化石標本(10種)
12月10日(火)	盛岡白百合学園小学校	14	こねばち 炭火アイロン ランプ そろばん つまごなど
12月17日(火)	盛岡白百合学園小学校	15	写真(氷冷蔵庫、食事の様子他)、説明プレート(深ぐつ、かんじき他)
1月25日(土)	盛岡市立下小路中学校	9	昆虫標本、胴乱、展翅板など

## (ウ) 博物館館園実習

学芸員資格取得に係る館務実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、または本県出身者を対象としている。地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割について講義等を行っている。実習・講義の内容については「5. (1) ア. (イ) 教育普及事業」の本項を参照のこと。実習期間と受け入れ人数等は次のとおり。

期間：令和元年8月17日(土)～8月24日(土)(8月19日(月)の休館日を除いた7日間)

実習生出身校と参加人数：盛岡大学6名、岩手大学1名、駒澤大学1名、女子美術大学1名  
合計9名

### 5. (2) 教育普及活動

#### ウ. 職場体験・インターンシップ

今年度は4件7名の職場体験・インターンシップの申し込みがあった(30年度は5件23名)。インターンシップは東北地域大学間連携インターンシップからの受け入れとして5日間の予定であったが台風19号のため3日間に短縮して実施。職場体験は中学校1校で実施。

表 5.(2)-6 令和元年度実施職場体験・インターンシップ参加校一覧

	実施日時	所属校	人数	体験内容
1	10月5・6・14日	岩手県立大学	1	資料整理、ミュージアムシアター・チャレンジはくぶつかん・たいけん教室対応
2	10月5・6・14日	盛岡短期大学部	1	資料整理、ミュージアムシアター・チャレンジはくぶつかん・たいけん教室対応
3	10月5・6・14日	盛岡大学	1	資料整理、ミュージアムシアター・チャレンジはくぶつかん・たいけん教室対応
4	10月17日	盛岡市立下小路中学校	4	学芸員インタビュー、たいけん教室準備

表 5.(2)-7 令和元年度中堅教諭等資質向上研修社会体験等受け入れ先一覧

	実施日時	所属校	人数	体験内容
1	10月20日	盛岡市立上田中学校	1	たいけん教室対応
2	10月20日	盛岡市立見前南中学校	1	たいけん教室対応

### 5. (2) 教育普及活動

#### エ. 問い合わせ受付

日常的に学芸員が対応する問合せについて、集計を行っている。計画されている事業に関わるものや外部研究者等との日常的な連絡以外、対応したすべての事項となっている。質問等は多岐にわたっており、即答で済む場合や回答に相当期間を要する場合など内容によってさまざまである。調査研究に関わるものも含んでいる。

表 5.(2)-8 令和元年度 問い合わせ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	28	来館	17	化石の鑑定について/岩手に珪藻土がとれるところはあるか/採集した貝化石を見てほしい/パレオバドキシアの歯について/校庭で拾った石を見てほしい/化石ができるまでにかかる時間は
		電話	7	花巻市(東和町)丹内山神社のご神体の岩質は/化石の鑑定依頼
		FAX、メール、手紙、その他	4	鯨化石の鑑定依頼/岩石鑑定
生物	130	来館	22	稀少種保全措置に関するヒアリング/ウミガメ剥製の売買に関する捜査への協力/被災自然史標本の修復について/津波後の沿岸の生物について/骨の同定
		電話	31	カラスの個体数増加の要因について/オケラ(虫)は珍しいか/ミツガシワは珍しいか/図鑑の紹介/県内のトンボに詳しい方の紹介
		FAX、メール、手紙、その他	77	写真による生物の種同定について/自然に関するガイドブックの校閲/植物の開花時期について/生物の県内分布と個体数について
考古	17	来館	5	縄文土器の野焼き温度について/岩手より南にも遮光器土偶は出るのか/大洞式土器の特徴は/縄文草創期の有舌尖頭器の広域分布について
		電話	5	岩手の縄文時代前～中期土器の研究動向について/繊維を含む縄文土器が中期後半以降にもあるか/岩手県内における緑色片岩製磨製石斧の検出状況について
		FAX、メール、手紙、その他	7	北上市成田岩田堂館跡から出土した土器が弥生土器かどうかについて/画像の土偶について時期を教えてほしい/土器が本物か鑑定してほしい/添付画像の土偶の真贋を教えてほしい/画像の土偶と石棒について
歴史	50	来館	14	盛岡藩士の古文書について/川口月村のデッサンの場所について/江戸時代の釜石の石高について/盛岡藩・仙台藩の藩境について/南部馬について/南部藩の九牧(特に木崎野)について/糠部郡について
		電話	25	鈴木盛久銘の南部鉄器について/江幡五郎について/明治天皇の東北巡幸時の写真について/花輪南部氏について/近世行政区分の通について/官営製鉄所(釜石)関連の資料について
		FAX、メール、手紙、その他	11	明治8年の発寒村屯田兵について/各地の城・陣屋など説明文の表記について/『紙本著色鍛冶神図』『鍛冶神像掛図』について/花巻城の絵図、沢田家安政2年の文書について・金田一資料について
民俗	63	来館	18	凧の制作方法について/岩手の郷土玩具について(特に独楽・こけしの製作者、花巻人形について)/藍染について/曲屋の屋根材について/岩手の隠し念仏、浄土真宗の別院・分院について
		電話	43	博物館資料の点数、寄贈点数、資料の管理・施設の維持など/田山暦について/漆芸家 古関六平について/伝統切り紙について/石倉神社の猫絵馬について/ナモミ、小正月行事について
		FAX、メール、手紙、その他	2	いろいろまわりの習俗について/吉里吉里虎舞の由来について
文化財科学	8	来館	1	文化財科学について
		電話	6	施設くん蒸について/登録有形文化財の建物に対するシロアリ駆除について/遺跡から出土した漆関係遺物の保存方法について/金属製品の保存処理は自前で実施可能か
		FAX、メール、手紙、その他	1	神社の芳名板と棟札の文字を赤外線で解読したい
合計		296		

5. 事業の概要

(3) 調査研究活動

調査研究活動は、博物館の展示活動、教育普及活動等を展開するうえでの基幹活動に位置づけられる。学芸員が取り組む研究テーマは、小テーマ、小テーマを包括する大テーマに区分され、それぞれのテーマに従い研究が行われた。一部の研究テーマについては研究協力員、他機関に所属する研究者と共同で進められた。年度末には「館内調査研究報告会」が実施され、全学芸員から令和元年度の研究進捗状況、研究成果が報告された。

また、一定の成果が得られた研究については『岩手県立博物館研究報告』第37号のほか、学会、学術雑誌、各種報告書等で公表された。考古部門では岩手県教育委員会からの委託による縄文時代の環状列石を含む配石遺構の研究を受託し、生物学部門では自然史標本データ整備事業を実施した。

ア. 調査研究活動の概要

地質部門4テーマ、生物部門6テーマ、自然史部門(地質・生物)1テーマ、考古部門5テーマ、歴史部門5テーマ、民俗部門5テーマ、文化財科学部門1テーマで調査研究活動が推進された。

表 5.(3)-1 令和元年度調査研究テーマとその実施状況

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
地質	地域地質に関する研究 A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月貴史 山岸千人	陸前高田市矢作町において、ヘルム系上八瀬層の古生物学的調査を行った。また「三陸復興プロジェクト」の一環として沿岸部での地質観察会を催し、関連する調査を行った。
	地域地質に関する研究 B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	山岸千人 望月貴史	本年度は「三陸防災復興プロジェクト 国立科学博物館・岩手県立博物館・コラボミュージアム『生命のれきしー君につながるものがたり』」への協力を傾注したこと、地質観察会も沿岸部での実施となったため、内陸地域における研究活動を行わなかった。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月貴史	モンゴルゴビアルタイ地域において、エディアカラ系 - カンブリア系の古生物学的研究を行った。研究成果の一部は、日本古生物学会において報告したほか、令和元年度地質部門テーマ展「化石の水族館」にて展示を行った。
	地域環境に関する研究	火山・地震・気象現象に関わる研究	山岸千人	八幡平鏡沼で見られる現象「ドラゴンアイ」の継続的観察を行った。地質観察会予定地であった陸前高田市飯盛沢で発生した林道の崩壊について調査を行った。
生物	地域生態系の研究	北東北三県のブナ林を中心とした森林生態系の生物相に関する研究	藤井忠志 鈴木まほろ 渡辺修二	八幡平・網張・安比・川内夏屋等のブナ林において、クマゲラの痕跡調査を実施した(藤井)。
	日本産鳥類の生態学的研究	北東北三県における本州産クマゲラ個体群の生息状況およびその生態に関する研究	藤井忠志	日本において南限地に位置する北東北三県、特に白神山地と森吉山に焦点をあて、クマゲラ ( <i>Dryocopus martius</i> ) 個体群の生息分布調査を NPO 法人本州産クマゲラ研究会支援の下、継続実施した。しかし、繁殖活動はおろか、1 個体も確認できなかった。また、林野庁東北森林管理局署員へのクマゲラの生態(座学)や現地調査等の指導を行った。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
生物	国内および県内における鳥類分布に関する研究	岩手県産の鳥相に関する研究	藤井忠志	岩手県内における鳥相のあらゆる情報を収集するとともに、日本鳥類目録改訂第7版（日本鳥学会 2012年刊行）の大幅な分類変更に伴い、岩手県産鳥類目録および岩手県産珍鳥詳細記録（藤井ほか 2008）の追記・更新を継続した。また、日本鳥類目録改訂第8版編集のために、岩手県分を担当し、そのリストを日本鳥学会に提出した。早池峰山産と考えられるライチョウ剥製標本の発見に伴い、追跡調査を実施中（事例報告：「岩手県陸中産ライチョウ剥製標本の発見と早池峰山におけるライチョウ生息の可能性」Wildlife and Human Society7,2019）。その他、短報「繁殖期におけるサンコウチョウの羽広げ行動」Bird Research 2019.
	地域の生物分布と生態に関する研究	岩手県内における生物分布と生態に関する研究	渡辺修二	盛岡市内の洞穴に生息するホラヒメグモを採集し、その形態的特徴の違いから、それが岩泉に生息するアッカホラヒメグモに近い特徴を持つ別種であることを明らかにした（R2年度に日本蜘蛛学会誌『Acta Arachnologica』に投稿予定）。久慈市の夏井川河口付近のクモ相調査を行い、県内未記録のカワラメキリグモ、サッポロフクログモが生息することを当館『研究報告』に投稿した。滝沢市教育委員会からの依頼により、同市内のカワシンジュガイの調査を行い、分布状況を報告した。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする植物の分布と生態に関する研究	鈴木まほろ	環境省レッドリスト改訂のための調査や県レッドデータブック追跡調査を兼ねて、県内の絶滅危惧植物の生育と個体数の確認を行い、結果を県などに報告した。調査地は早池峰山・宮古湾岸など。早池峰山登山道沿いにおいて食痕調査及びセンサーカメラによる動物行動調査を行い、結果を県・東北森林管理局などに報告し、一部を当館『研究報告』に投稿した。北東北地方に唯一の自生個体群となった金ヶ崎町のマツムシソウ生育地の保全策について町と協議し、将来の保全計画に備えて基礎的な情報を蓄積するため、マツムシソウの繁殖生態学的研究を行った。
県内の植物相の研究		鈴木まほろ	岩手県植物誌調査会との合同事業として、県内の約8万件の植物標本情報を基に『岩手県産維管束植物チェックリスト 第4版』を作成、発表した（2019年12月）。	
自然史（地質・生物）	自然史標本の管理・公開に関する研究	自然史標本の管理・公開、成果の発信に関する研究	山岸千人 望月貴史 藤井忠志 鈴木まほろ 渡辺修二	全国の博物館及び大学等研究機関における生物標本庫の管理状況について、前年度に行ったアンケート調査の結果を分析した。成果の一部は、日本地質学会第126年学術大会（2019年9月・山口市）のセッション「大学・博物館における学術標本の未来」において、招待講演として「大学と博物館の生物標本管理に関するアンケート調査」と題して発表した（鈴木）。
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	小山内透 濱田宏 金子昭彦	鳥畑壽夫コレクションについては、令和2年度の収蔵目録の公開に向け、草間俊一コレクションについても早期の収蔵目録公開に向けて資料調査と整理を継続した。小岩末治コレクションについては、「収蔵目録考古VII 小岩末治コレクション その1」を刊行しており、「その2」の発刊に向け、残る資料の写真・古文書等の資料調査と整理を継続した。
		縄文時代の土偶の研究	金子昭彦	他時期・他地域の土偶と比較して岩手県出土土偶の理解を深めることを目的として、東北歴史博物館で「宮城県出土土偶」、群馬県立歴史博物館でハート形土偶展、長野県立歴史館で長野県の中期土偶を中心とした展覧会を見学し、その成果を館内調査研究報告会等で発表した。
	歴史時代の考古学的研究	縄文時代の環状列石を含む配石遺構の研究	濱田宏 金子昭彦	県受託事業「岩手における環状列石関連遺跡調査」に関わり、4年計画の初年度となる洋野町西平内I遺跡の発掘調査を、洋野町教育委員会と合同で実施した。
		縄文時代、古代における狩猟と生産	濱田宏	古代製塩に関し、日本海側と太平洋側の技術の相違について比較・検討した。
	岩手の古代鉄生産の研究	小山内透	岩手県の古代～中世の鉄生産について、製鉄炉の構造形態の変遷を集成し、主に東北各県の製鉄遺構との形態的対比から、県内製鉄技術の系譜を考察し、テーマ展「古・岩手のクロガネ」にて成果を公開した。	

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
歴史	古代～中世史の研究	古代・中世の気仙地方の歴史研究	菅野誠喜	気仙三十三観音を調査・写真撮影した。陸前高田市の歴史を現地調査し、震災前と後を比較し、日曜講座で発表した。
	近世史の研究	岩手の交通路、土木構造物の歴史研究	藺田貴弘	盛岡の夕顔瀬橋を通して、岩手県の交通路、土木構造物等について調査、考察し、その成果を日曜講座で紹介した。
	前近代における美術工芸の研究(古美術)	藩政期の美術工芸の研究	原田祐参	盛岡藩の刀剣・甲冑に関する台帳を調査し、盛岡藩における甲冑の管理のあり方を明らかにした。成果を第70回企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」の展示に反映させた。
	前近代における美術工芸の研究	中国古印の研究	原田祐参	当館が所蔵する中国古印の資料群「太田孝太郎コレクション」について基礎データの収集・整備を行った。新発見の資料を含めて、その成果をトピック展「風雅好古―太田夢庵の金石収蔵・研究と文人の世界」で公表した。
	近代・現代史の研究	岩手の政治思想の研究	武田麻紀子	幕末から大正にかけて、岩手にかかわる先人たちの政治思想・活動を追うことで、政治制度および人々の政治参加意識の変遷を調査した。成果は日曜講座で発表し『日本思想史研究』に論文を投稿した。
民俗	有形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤良子 米田寛	主に県内の民具全般について、資料収集及び基礎的調査に努めた。特に寄贈資料を中心にその基礎的情報の収集・調査を行った。
	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤良子 米田寛	主に沿岸地域の信仰やまつりについて、資料収集及び基礎的調査に努めた。
	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	近藤良子	南部曲がり屋・直屋の保存について調査を行った。
	民俗芸能に関わる研究	岩手の操り人形に関する研究	木戸口俊子	当館所蔵の淡路人形を中心に、現在残る広瀬人形芝居常楽座や倉沢人形歌舞伎や既に廃れてしまったものなど江戸・明治期～昭和の岩手県の操り人形(人形芝居)に関する調査を行った。
	生業に関する研究	漆工芸に関する研究	木戸口俊子 近藤良子 米田寛	当館所蔵の「古関六平コレクション」の検討を行った。漆芸家・古関六平の漆工芸作品の中には、漆絵・乾漆花器・漆器類がある。これらがどのような製作技法で作られているか調査を行った。また、材料の入手先、交流関係などの基本情報の収取も継続して行っている。これらの成果は、当館調査研究報告書で報告し、一般県民が利用できる資料とする計画である。
文化財科学	文化財の保存修復に関する研究	津波被災資料の安定化処理法および抜本修復法に関する研究	丸山浩治	紙製資料安定化処理法の見直しを、資料保存と作業時間短縮の観点から外部有識者とともに実施した。主たる見直し項目は、①Cl濃度の終点値(水道水+1ppmを50ppmに変更)、②中性洗剤の濃度(0.5%を0.3%に変更)、③浸漬時間(3～5日を1～1.5日に変更)の3つである。次年度処理資料をこの方法で実施し、調査を継続してさらなる改善を図っていく。

表 5.(3) - 2 調査研究活動に関わる製作・同定・借り上げ

部門	事業名	内容
地質	岩石標本箱製作	当館の電動棚の規格の9箱作成した。
	岩石薄片製作	県内外で採集した岩石の調査研究用薄片を9枚作成した
文化財科学	微小X線構造解析	(本年度は行わなかった)

## イ. 館内調査研究報告会

期 日：令和2年3月2日（月） 9：30～15：45 講堂

開会行事 9：30～9：35 挨拶 高橋 廣至（館長）

### I 個別調査研究（10分1鈴、12分2鈴＝終了・質疑、15分3鈴終了）

〔午前の部〕

- |             |                               |       |
|-------------|-------------------------------|-------|
| 9：45～10：00  | モンゴルゴビアルタイ地域における古生物学的調査報告     | 望月 貴史 |
| 10：00～10：15 | 第78回地質観察会の中止に至った経緯と、現地の様子について | 山岸 千人 |
| 10：15～10：30 | モリオカホラヒメグモは新種か？               | 渡辺 修二 |
| 10：30～10：45 | 早池峰固有種ナンブトウウチソウの花を食べたのは誰？     | 鈴木まほろ |

〔休憩〕

- |             |  |       |
|-------------|--|-------|
| 11：00～11：15 | 岩手県陸中産ライチョウ剥製標本の発見と早池峰山におけるライ<br>チョウ生息の可能性 | 藤井 忠志 |
| 11：15～11：30 | 縄文土偶の二形式－立つ土偶と立たない土偶－                      | 金子 昭彦 |
| 11：30～11：45 | 岩手における環状列石関連遺跡調査 洋野町『西平内 I 遺跡』<br>調査報告     | 濱田 宏  |
| 11：45～12：00 | 岩手の古代～中世製鉄技術の系譜                            | 小山内 透 |

〔午後の部〕

- |             |  |       |
|-------------|--|-------|
| 13：00～13：15 | 岩手県立博物館所蔵中国古印「太田孝太郎コレクション」の研究動<br>向と活用について | 原田 祐参 |
| 13：15～13：30 | 那珂梧楼の思想－吉田松陰との関わりからの一考察－                   | 武田麻紀子 |
| 13：30～13：45 | 今も残る陸前高田の歴史                                | 菅野 誠喜 |
| 13：45～14：00 | 岩手の往来と夕顔瀬橋                                 | 藪田 貴弘 |

〔休憩〕

- |             |  |       |
|-------------|--|-------|
| 14：15～14：30 | 岩手県立博物館所蔵「古関六平コレクション」のこけしについて              | 米田 寛  |
| 14：30～14：45 | 岩手の操り人形について                                | 木戸口俊子 |
| 14：45～15：00 | 藩政期の「寄り鯨」を伝える県内事例についての一考察<br>－宮古市赤前の「寄り鯨」－ | 近藤 良子 |

### II 部門別調査研究

15：00～15：30 〔地質・生物・考古・歴史・民俗〕

閉会行事 15：35～ 講評 高橋 嘉行（岩手県文化振興事業団理事長）

## ウ. 調査研究成果の公表

### （ア）『岩手県立博物館研究報告』第37号

（A4判PDF・7頁・令和2年3月31日発行予定）

金子昭彦「滝沢村菓子 I 遺跡出土大洞BC式大型壺について」（訂正），1p.

鈴木まほろ「早池峰山固有種ナンブトウウチソウの果序を食害するネズミ」,2-5

渡辺修二「久慈市夏井川河口で採集された県内未記録のクモ」,6-7

## (イ) 「岩手県立博物館調査研究報告書」第35冊

令和元年度の発行は無し

## (ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作 (\*共同発表の際の当館職員)

### a. 口頭発表等

金子昭彦：十腰内文化の祭祀遺物，三県合同シンポジウム—十腰内文化とは—，2019年11月，弘前市

金子昭彦：東北地方の土偶の仕舞い方．第17回土偶研究会，2020年1月，長野県千曲市

鈴木まほろ：大学と博物館の生物標本管理に関するアンケート調査．日本地質学会第126年学術大会，2019年9月，山口市

望月貴史：上部白亜系久慈層群国丹層から産出する生痕化石．日本古生物学会2019年年会，2019年6月，静岡市

望月貴史：国立科学博物館・巡回ミュージアム in 岩手の実施とその後について．文化庁委託事業「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」総括シンポジウム，2020年2月，東京都台東区

望月貴史\*・大路樹生・Gonchigdorj Sersmaa・大沢果那・小野寺香乃：モンゴル西部 Bayan Gol 溪谷の上部エディアカラ系 Zuun-Arts Formation で産出した藻類 *Chinggiskhaania bifurcata* とその意義（ポスター発表）．2020年2月，東京都渋谷区

### b. 論文・報文

金子昭彦（2019）関東地方の亀ヶ岡式的な土偶，東京考古，(37)：31-67．査読なし

金子昭彦（2019）関東地方における亀ヶ岡式的な土偶の意義，DOGU，(2)：49-66．査読なし

金子昭彦（2019）長原タイプ土偶の系譜，考古学研究，(66-3)：108-117．査読あり

金子昭彦（2020）東北地方・縄文晩期の土偶関連遺物(5)，岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要，(39)：1-24．査読なし

金子昭彦（2020）十腰内I式土器文化における配石の意味，岩手考古学，(31)：1-18．査読なし

金子昭彦（2020）水野正好「土偶祭式」説の検証（下），青森県考古学，(28)：39-58．査読なし

鈴木まほろ（2019）岩手の植物相調査について．*Rhacophorus* (27)：9-13．査読なし

武田麻紀子（2019）鈴木舎定のキリスト教と自由民権『東京新報』・『七一雑報』・『盛岡新誌』を中心に，日本思想史研究，(51)：37-58．査読あり

藤井忠志・稲葉正和・湯浅俊行・横山恵一（2019）岩手県陸中産ライチョウ剥製標本の発見と早池峰山におけるライチョウ生息の可能性．*Wildlife and Human Society* 7(1)：33-40．査読あり

藤井忠志・渡邊 治（2019）繁殖期におけるサンコウチョウの羽広げ行動．*Bird Resarch* Vol.15：S7-S10．査読あり

### c. 新聞への著作

読売新聞岩手版 土曜博物館 各月第一・三・五土曜日掲載

山岸千人（地質部門）「ドラゴンアイ-氷の瞳 色形、自然任せ-」平成31年4月6日

武田麻紀子（歴史部門）「戊辰戦争-藩士の視点から史実迫る-」平成31年4月20日

金子昭彦（考古部門）「弥生の岩手-土器、墓 北海道と交流-」令和元年5月18日

藤井忠志（生物部門）「クマゲラ-繁殖地破壊 天敵は人間-」令和元年6月1日

米田 寛（民俗部門）「帽子掛けこけし-唱和の増沢塗 希少な作品-」令和元年6月15日



丸山浩治（文化財科学部門） 「火山-噴火の歴史 防災に生かす-」 令和元年6月29日  
小山内透（考古部門） 「古代製鉄-技術発達、系譜示す遺構-」 令和元年8月3日  
渡辺修二（生物部門） 「骨-数や形 進化の過程表す-」 令和元年8月17日  
近藤良子（民俗部門） 「蠅とり器-美しく役立つガラス瓶-」 令和元年8月31日  
山岸千人（地質部門） 「つるし雲（レンズ雲）-岩手山上空 常に形変える-」 令和元年9月7日  
菅野誠喜（歴史部門） 「ふるさとの記憶-陸前高田 文化・歴史の「証人」-」 令和元年9月21日  
鈴木まほろ（生物部門） 「早池峰山-シカ食害 高山植物に危機-」 令和元年10月5日  
藺田貴弘（歴史部門） 「宮古街道-鞭牛和尚の道供養碑巡る-」 令和元年10月19日  
木戸口俊子（民俗部門） 「ちゃぶ台-時代を映す家具-」 令和元年11月2日  
原田祐参（歴史部門） 「甲冑-「県民の宝」南部利正の鎧-」 令和元年11月16日  
渡辺修二（生物部門） 「ヒアリ-殺虫剤 定着助長の恐れも-」 令和元年11月30日  
近藤良子（民俗部門） 「医学書-元禄の民間療法記す-」 令和元年12月7日  
武田麻紀子（歴史部門） 「西南戦争の供養絵額-死者の幸せ願い奉納-」 令和元年12月21日  
濱田 宏（考古部門） 「藻塩焼神事-古代の製塩今に伝える-」 令和2年1月11日  
金子昭彦（考古部門） 「縄文人の装飾-耳飾り 石、土製品が主流-」 令和2年2月1日  
鈴木まほろ（生物部門） 「ヴンダーカンマー -収集の喜び詰まった部屋-」 令和2年2月15日  
藺田貴弘（歴史部門） 「藤田武兵衛と宮古街道-苦難の道路開削事業-」 令和2年2月29日  
米田 寛（民俗部門） 「三陸の食-井上円了の舌も魅了-」 令和2年3月7日

#### d. その他の著作

藤井忠志「図録 クマゲラ」, 2014年度岩手県立博物館テーマ展「クマゲラの世界」用に制作した図録をセブソーイレブン記念財団活動助成にて2019年度に刊行  
望月貴史「さまざまな時代の化石たち」, 全科協ニュース, vol.50 (1), 全国科学博物館協議会:16, 2020

## 工. 受託研究実施状況

文化財の自然科学的調査によって、内部構造、材質、劣化状況等に関する客観的情報を得ることができる。得られた情報を基に、資料を後世に長く伝えるための措置が施される。

岩手県立博物館では、平成2年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する受託研究を実施している。平成24年度からは東日本大震災で被災した文化財の安定化処理および修理を開始した。令和元年度の受託研究実績は表5(3)-3に示すとおりである。一連の研究を通して得られた学術情報に、人文社会科学の研究成果を重ね合わせ、文化財の保存を図るとともに、過去を解明するうえでの学術情報の発信に努めている。

表 5.(3)-3 令和元年度受託研究実施実績

受託内容	件数	委託機関
被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災自然史関連資料修理業務	1	教育委員会
被災昆虫標本修理業務	1	教育委員会
被災民俗資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災鳥羽源藏コレクション安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
被災考古資料安定化処理及び修理業務	1	教育委員会
鉄製品保存処理業務	1	教育委員会
資料の生物学的劣化防除（くん蒸）業務	7	教育委員会、資料館等

## オ. 研究受託事業（岩手における環状列石関連遺跡調査）

考古部門では、今年度より「岩手における環状列石関連遺跡調査事業」を岩手県教育委員会から新たに受託し、九戸郡洋野町種市に所在する「西平内 I 遺跡」の発掘調査を洋野町教育委員会と合同で実施した。事業は 5 年計画とし、令和元年から都合 4 年間の発掘調査、その後 1 年かけて調査報告書を作成・発刊する予定となっている。

縄文時代後期前葉、北海道から北東北にかけては、環状列石をランドマークとする遺跡が複数存在し、当該期におけるこの地域の特徴の一つに数えられている。これらは、世界遺産の構成資産としても取り上げられる著名な遺跡群であるが、この西平内 I 遺跡も過去 2 か年にわたる調査によって、これらに劣らない内容をもつ遺跡と捉えられ、平成 30 年度には洋野町の史跡に指定されている。

今年度は、環状列石を構成する礫群を露出させる作業と、それらを覆う 2 枚の整地層の被覆範囲を確認すべく、9 月上旬から中旬にかけて 10 日間の発掘調査を実施した。

## カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料 10,000 件について、データ整理・整形を行い、提供した。

## キ. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成 11 年度から実施している。研究協力員としての活動期間は 3 年間で、申請・審査を経て更新することができる。

令和元年度は 3 名の更新と 1 人の新規登録が承認された。令和 2 年 3 月末現在で 15 名（下記一覧、順不同）となっている。

○研究協力員（新規）

- 1 佐々木康裕（元当館専門学芸員）：古代・中世における岩手と中央政治との関係に関する研究〔歴史部門〕

○研究協力員（更新）

- 2 沼宮内信之（日本森林技術協会）：北東北の植物相（特にスゲ属）〔生物部門〕
- 3 千葉武勝（元岩手県病害虫防除所長）：昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作成、調査研究手法に関する助言〔生物部門〕
- 4 吉田裕生（元当館学第二課長）：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究〔地質部門〕

○研究協力員（継続）

- 5 吉田 充（元当館学芸第三課長・生涯学習文化財課文化財専門員）：大鉢森山周辺に分布する母岩変性岩類から産出する金属資源（金）の研究等〔地質部門〕
- 6 大石雅之（元当館学芸部長）：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究〔地質部門〕
- 7 工藤紘一（元当館学芸第二課長）：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究〔民俗部門〕
- 8 玉山光典（盛岡中央高等学校教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相〔生物部門〕
- 9 後藤友明（岩手大学農学部准教授）：魚類分類学〔生物部門〕
- 10 大友令史（岩手県病害虫防除所）：病害虫の生態的研究〔生物部門〕
- 11 藤井千春（元当館主任専門学芸員・盛岡市立高等学校教諭）：北日本における発光生物の生態学的研究〔生物部門〕
- 12 目時和哉（元当館学芸調査員・岩手県立盛岡第一高等学校教諭）：前近代の東日本太平洋沿岸部における他地域との物質文化交流に関する学際的研究〔文化財科学部門〕
- 13 沼宮内耕作（元当館学芸部長）：岩手県の蘚苔類相〔生物部門〕
- 14 土谷信高（岩手大学教育学部教授）：岩石・鉱物を素材とする文化財の材質・製作技法に関する研究〔文化財科学部門〕
- 15 女鹿潤哉（元主任専門学芸員）：古代・中世の東北地方と北海道における物質文化交流についての文化財科学的研究〔文化財科学部門〕

5. 事業の概要

(4) 資料収集保管活動

ア. 資料の収集整理

令和元年度3月末現在の登録資料数は13,289点で、開館以降の累計は323,333点にのぼる(表5(4)-1)。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は28件、8,010点と15箱(生物5・民俗資料10)である(表5(4)-2)。

表5.(4)-1 令和元年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採 集	30年度末累計	2,963	29,571	922	3	77	33,536
	令和元年度計	3	6,482	-	-	-	6,485
	累 計	2,966	36,053	922	3	77	40,021
発 掘	30年度末累計	209	-	3,470	-	-	3,679
	令和元年度計	-	-	-	-	-	-
	累 計	209	-	3,470	-	-	3,679
寄 贈	30年度末累計	4,866	137,625	53,408	32,595	18,241	246,735
	令和元年度計	276	6,427	-	-	94	6,797
	累 計	5,142	144,052	53,408	32,595	18,335	253,532
購 入	30年度末累計	1,398	12,166	267	6,975	2,520	23,326
	令和元年度計	-	-	-	-	-	-
	累 計	1,398	12,166	267	6,975	2,520	23,326
製 作	30年度末累計	115	511	95	114	466	1,301
	令和元年度計	-	2	-	-	5	7
	累 計	115	513	95	114	471	1,308
所管換	30年度末累計	1	84	-	1,104	278	1,467
	令和元年度計	-	-	-	-	-	-
	累 計	1	84	-	1,104	278	1,467
合 計	30年度末累計	9,552	179,957	58,162	40,791	21,582	310,044
	令和元年度計	279	12,911	-	-	99	13,289
	累 計	9,831	192,868	58,162	40,791	21,681	323,333

新規登録資料点数は生物部門が最も多い。昆虫標本・植物標本を主体に12,911点で全体の約97%を占める。

地質部門では中生代のサメの歯、岩石標本など279点を、生物部門では千葉武勝氏の二戸市稲庭岳調査関連の昆虫標本、当館と岩手県植物誌調査会が採集した植物標本など12,911点を、民俗部門では同年に寄贈された経本やこけし類99点を、それぞれ登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、平成23年度の試行結果を踏まえ、当館では資料登録を平成24年4月から早稲田システム開発(株)が提供するI.B.Museum SaaSにより行っている。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインタ

ーネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。また、東日本大震災でクローズアップされたクラウド型システムの利点として、登録情報が遠隔地で保管されるため、災害等によるデータ喪失の危険性が大幅に軽減されている。このシステムを使用し、現在 805 点の当館所蔵の資料情報を公開中である。

表 5.(4)-2 令和元年度の主な受贈資料

部 門	寄贈者 (敬称略)	居住地 所在地	資 料 名	数量
地 質	笹本 清一	八戸市	洋野町・野田村・久慈市産白亜系化石標本	285
	木村 修	宮古市	犬牙状方解石を伴う貝化石	1
生 物	藤島 健一	盛岡市	植物図鑑『牧野日本植物図鑑』第3版	1
	吉田 修次	盛岡市	パノラマ写真	1
	新海 栄一	東京都	クモの文献	236
	市川 杜夫	盛岡市	生物標本	821
	沼宮内耕作	盛岡市	研究ノート及び参考文献(蘚苔類・変形菌類)	5箱
	日本植物画倶楽部	東京都	『日本の絶滅危惧植物図鑑 普及版』・同特装版/『日本の帰化植物図鑑』	3
	米内小学校	盛岡市	トラ剥製等	15
	小田 眷良	一関市	チョウ類標本/文献	5,493
歴 史	小笠原義文	盛岡市	刀/槍/弓/掛軸/錦絵	36
	小山 祐吾	盛岡市	軍刀/サーベル/式刀/警察官道具ほか	10
	沼宮内耕作	盛岡市	南部利綱公題書/明子書「智仁勇」	1
	谷口真由美	千葉県	昭和初期アルバム/千人針ほか	6
	鈴木 和則	盛岡市	『いろは数引 明治新撰 萬通早引大全』	1
	盛岡地方气象台	盛岡市	(末崎仁平撮影) 明治三陸津波ガラス乾板	24
民 俗	古関 裕平	群馬県	漆絵/乾湿花器/帽子掛けこけし ほか	107
	栃内 得治	盛岡市	麻網/麻紐ほか	12
	橋本 勝	仙台市	座布団/義太夫見台/見台収納棚ほか	99
	浅沼久仁弘	盛岡市	阿弥陀経/経本/伊呂波字引	16
	木戸口恵美子	盛岡市	ランドセル/教科書ほか	19
	田中富美子	横浜市	ネガフィルム/関係文書ほか	553
	佐藤 武	花巻市	雑誌類/こけし/乾湿計/大正琴ほか	136
	大矢 正子	盛岡市	漆器類一式	10箱
	渋谷 光男	盛岡市	郷土玩具一式/書籍	48
	金澤 浩	十和田市	南部暦版木(明治22年版)	1
	浅沼久仁弘	盛岡市	経本/謡本/教本ほか	22
	伊藤 武雄	盛岡市	祭半纏/風呂敷/行李	27
	鎌田 隆	盛岡市	こけし/書籍	60

計 28 件 8,034 点 生物部門 5 箱、民俗部門 10 箱

表 5.(4)-3 資料の製作

部門	名 称	内 容 の 概 略
生物	三陸海底地形模型	開館 40 周年記念特別展に関わる展示資料として製作
地質	白亜紀の海の中	開館 40 周年記念特別展に関わる展示資料として製作
地質	カンブリア紀の海の中	テーマ展に関わる展示資料として製作※1
地質	エディアカラ紀の海の中	テーマ展に関わる展示資料として製作※2
民俗	レプリカ製作	岩手県指定文化財「雫石町の野良着（雫石あねっこ）」のレプリカとホームスパン製作

※1, 2 全国科学博物館活動等助成事業の助成を受けて製作

表 5.(4)-4 資料の補修、用品類の購入

部 門	事 業 名	内 容
—	—	(本年度の制作は無し)

表 5.(4)-5 機器類の保守点検と修繕

項 目	部 門	機 器 名 また は 内 容
保守点検	歴 史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム（文化財科学室・器具庫・X線分析室空気清浄化システム）/表面分析装置（蛍光X線分析装置・X線回折装置）/微量化学分析装置（ICP発光分光分析装置）/汎用科学分析装置（赤外分光光度計・示差熱重量同時分析装置）/保存処理機器（小型真空凍結乾燥機・真空樹脂含浸装置）/博物館資料滅菌システム（滅菌装置・ガス漏洩検知機）
修 繕	文化財科学	気化式加湿器/塩素イオンメーター/博物館資料滅菌システム/分析天秤/集塵機
その他	文化財科学	施設くん蒸消毒/文化財科学作業環境測定/使用済薬品等廃棄処分

## イ. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

### (ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出の要請があり、実物資料については17件・168点、画像（写真）資料については67件・142点の貸出を行った（表5(4)-6）。博物館関係機関はもとより、教科書および学術書への掲載を目的とする借用が多くを占めた（表5(4)-7）。

表 5.(4)-6 資料の貸出

担当部門	貸出先 (所在地)	資料名	数量
地質	盛岡市立高等学校	鱗木化石	1
	牛の博物館	鯨類肋骨片化石/オンマイシカゲガイ化石/タカハシホタテ化石/ツメタガイの一種化石/ホソバイチョウガニ化石/ブナの葉化石/カバノキ?属の一種の葉化石/ヒメマスオ化石/ゴイスアギガイ化石/オウシュウイヌスギ葉化石/ヒトデ類化石/センスガイの一種/生痕化石	14
生物	盛岡市立下小路中学校	ヒメヤママユ/コムラサキ/ワモンキシタバほか昆虫標本	4
	奥州市牛の博物館	アカネズミ/ドブネズミ/トウホクヤチネズミ他剥製	12
	山田町立鯨と海の科学館	大型海藻押し葉標本	5
	芦東山記念館	カモシカ/イノシシ/ハクビシン/トウホクノウサギほか動物剥製	21
	八戸市博物館	ツキノワグマ関連資料 (写真含む)	4
	山形大学農学部里山創生論研究室	タヌキ骨格標本、冷凍標本	5
考古	北上市立博物館和賀分館	北上市和賀町愛宕山遺跡出土資料 (当館発掘資料)	6
	福島県博物館	二戸市馬立Ⅱ遺跡出土狩猟文土器 (岩手県蔵) /野田村根井貝塚出土蛇骨入土器 (館蔵)	3
	東北歴史博物館	平泉町柳の御所遺跡出土資料 (重要文化財)	37
	(森) パール (仙台三越・札幌三越)	岩泉町岩谷洞穴出土天然真珠	2
	盛岡市遺跡の学び館	岩手町沼崎遺跡出土土師器	15
歴史	一関市博物館	仙台五枚銅具足/脇指 銘 手柄山甲斐守正繁 拵付/脇指用刀架 (二つ掛け) 刀用刀架 (二つ掛け)	8
	もりおか歴史文化館	海岸絵図御用日記 (佐々木家資料) /国統全図 (杉村コレクション)	2
民俗	村田町歴史みらい館	猫淵神社絵馬「猫図」	13
	奥州市牛の博物館	猫淵神社絵馬「猫図」	16

計 17件 168点

表 5.(4)-7 画像資料の貸出

部門名	貸出先	資料名	点数
地質	岩手県秘書広報室広聴広報課	モシリユウの上腕骨のレプリカ/アンモナイト (エオテトラゴニテス) /アンモナイト (ヒパカンソプリテス)	3
	株式会社レマン	マメンキサウルス骨格標本	1
	平野智子	モシリユウ発見地/同・上腕骨化石/大船渡湾・岩手県地質概略図	3
	(株)メディア・バスターズ	三陸の形成	1
	雫石立西山小学校	ヒメハダカイワシの化石のレプリカ写真	1
	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県観光鳥観図原図 (吉田初三郎作)	1
	平塚市博物館	マメンキサウルス全身骨格	1
	株式会社小学館	モシリユウ復元画/モシリユウ上腕骨	2
	有限会社 ハユマ	モシリユウ上腕骨/モシリユウ生態復元図	2
	株式会社 ベネッセコーポレーション	ハナイズミモリウシ	1
	株式会社 北鹿新聞社	プラテカルプス	1
	釜石市商業観光課	リンボク化石	1
	川口印刷工業株式会社	岩手県地質図 (県博版) /雪沢サンゴ露頭/岩泉旧 455 号沿い褶曲露頭/蛇紋岩/バラ輝石/ヒパカンソプリテス/レプトダス	7
	三陸ジオパーク推進協議会	蛇紋岩	1

部門名	貸出先	資料名	点数	
生 物	NHK盛岡放送局	エゾタンポポ/セイヨウタンポポ	2	
	自然を見つめる「やぶなべ会」	村井三郎の肖像写真/村井三郎集合写真	2	
	八戸市博物館	ツキノワグマ嬰兒/ツキノワグマ/ツキノワグマ(アルビノ)/ツキノワグマ胎児	4	
	一般財団法人 自然環境研究センター	希少種の花	3	
考 古	中央出版株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1	
	長野県立歴史館	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1	
	群馬県立歴史博物館	萩内遺跡出土大型土偶頭部(正面・俯瞰)	2	
	株式会社 岩手日報社	岩手町豊岡遺跡出土土偶	1	
	株式会社 森パール	岩谷洞窟出土淡水真珠(有孔)および天然真珠	2	
	盛岡市中央公民館	手代森遺跡出土遮光器土偶	1	
	特定非営利活動法人一関文化会議所	寺場遺跡出土縄文前期土偶/熊穴洞穴の人骨出土状態	2	
	二戸市立浄法寺歴史民俗資料館	小田島禄郎氏の肖像写真	1	
	岩手大学 アンデス・カールキビスト	常設展示室にある縄文時代の竪穴住居模型	1	
	株式会社日本アート・センター	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1	
	株式会社NHKグローバルメディアサービス	手代森遺跡出土遮光器土偶	1	
	株式会社フォト・オリジナル	手代森遺跡出土遮光器土偶	1	
	株式会社カルチャーランド	岩手県立博物館外観	1	
	十日町市博物館	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1	
	(株)ワールド航空サービス	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1	
	NPO法人 むきばんだ応援団	手代森遺跡出土遮光器土偶/萩内遺跡出土土偶頭部	2	
	歴 史	小原祐子	佐々木藍田「山田浦海岸之図」	1
		株式会社 フジテレビジョン	報知新聞錦絵「奥羽御巡幸図会」	1
株式会社エイディープイ・ビジョン		宇治川大合戦先陣の図(二代 歌川国綱)	1	
菊池正則		第3編郷土の自然	1	
株式会社オクタゴン		錦絵「奥羽御巡幸図会」(松島部分のみ)	1	
有限会社 三猿舎		「毛越寺・観自在王院」の模型画像	1	
株式会社ディラナダチ		「毛越寺・観自在王院」の模型画像	1	
吉川弘文館		「毛越寺・観自在王院」の模型画像	1	
株式会社国書刊行会		黒石寺伝慈覚大師僧形座像/天台寺伝吉祥天立像	2	
株式会社 芸術新聞社		「太田コレクション」中国古印	10	
株式会社 遊無有		紙本著色鍛冶神図	1	
株式会社 天夢人		鯨尾兜	1	
酒井孔明		紙本著色鍛冶神図/鍛冶神像掛図	2	
一関市博物館		仙台五枚胴具足/脇差 銘 手柄山甲斐守正繁 拵付	2	
株式会社 テレビ朝日		鯨尾兜	1	
(公財) 福島県文化振興財団 福島県文化財センター白河館		大槌畑屋鍛冶絵巻	1	
青森県環境生活部県民生活文化課		五戸木村文書「南部信直書状」(文禄3年ヵ10月22日) 二戸市野田家文書「南部信直書状」(天正19年4月16日)ほか	22	
株式会社 帝国書院		俵物(「煎海鼠」・「干鮑」・「フカヒレ」)	3	
紫波歴史研究会		木造准胝観世音菩薩坐像/沢口観音堂貞享五年棟札(表裏)	2	



部門名	貸出先	資料名	点数
歴史	株式会社 樫出版社	聖観音立像（天台寺蔵）	1
	紫波歴史研究会	源勝寺所蔵 銅像観音菩薩立像	1
	紫波歴史研究会	銅双雀鏡/銅秋草双雀鏡/銅梅花双雀鏡/銅菊花双雀鏡/金銅懸仏/常滑産三筋文壺	6
	内閣官房 産業遺産の世界遺産登録推進室	釜石鉱山寮之図	1
	中村隼人	花巻城下図	1
	東京書籍株式会社	俵物(「煎海鼠」「干鮑」「フカヒレ」)	3
	戎光祥出版株式会社	鯨尾兜	1
民俗	岩手県立図書館	オシラガミ/旧藤野家住宅近景/旧佐々木家住宅近景/旧佐々木家住宅土間	4
	株式会社 吉川弘文館	はせに掛けられた粟（岩手町）	1
	岩手県立大学盛岡短期大学部 菊池直子	及川全三のホームスパン	1
	村田町歴史みらい館	猫淵神社の猫絵馬	1
	株式会社ディスカバージャパン	「岩手を旅した絵師の足跡」から蓑虫山人絵日記	3
文化財科学	宮崎県立西都原考古博物館	『安定化处理』/「瓦礫の中から回収された岩手県指定文化財吉田家住宅の部材を洗浄するボランティア」/「岩手県立博物館の車庫に搬入された陸前高田市博物館所蔵押し葉標本/ほか	6

## (イ) 資料の熟覧・撮影等

他施設の職員による展示会等の事前調査や研究者による収蔵資料の熟覧・撮影希望も多数あり、これらの業務に各部門で対応した（表 5(4)-8）。

表 5.(4)-8 資料調査の熟覧・撮影

担当部門	資 料 名	点数
地 質	磁鉄鉱 / クレトラムナ産状 / クレトラムナの歯 / 石膏 / クリソタイル / 火山礫凝灰岩 / グリーンタフ/ほか	24
考 古	稗内遺跡出土大型土偶	1
	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	馬立Ⅱ遺跡出土狩猟文土器	1
	根井貝塚出土へび骨入り土器	2
	火行塚遺跡出土弥生土器ほか	56
	丹内Ⅰ遺跡出土土器、常盤遺跡出土土器、赤穴洞穴出土土器、和井内東遺跡出土土器	145
	丹内Ⅰ遺跡出土土器/ほか	73
	寺場遺跡出土土偶	1
	熊堂古墳玉類/浮島古墳玉類/ほか	341
歴 史	沢田家文書	57
	鍛冶神像掛図	1

担当部門	資 料 名	点数
歴 史	太田孝太郎旧蔵中国古印コレクション/ほか	1,099
	金沢御山大盛之図	1
	花巻城下図	1
	毛越寺・観自在王院模型	1
	花巻城下図、沢田家文書「安政二年江戸表より申進候御用状下案（大地震上屋敷焼失二付）」	2
	吉田家文書デジタル画像 「文久3年」/ほか	9
	延鉄	1
民 俗	南部暦 明治22/1889年 米澤稻城版/ほか	49

1866点

## ウ. 文化財科学部門

岩手県立博物館には、先人から伝えられた貴重な文化財や、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料が有するさまざまな情報を、自然科学的方法で解析し読み解くとともに、貴重な学術資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えることを目的として、文化財科学部門が設置されている。

### (ア) 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を整える必要がある。岩手県立博物館では、収蔵庫及び展示場に温湿度記録計を設置し、継続的に温湿度変化を観察している。その結果にもとづき空調機を制御し、さらに必要に応じて除湿機や加湿器を使用しながら、展示場、収蔵庫内の温度を21～23℃、湿度を50～60%に維持することに努めている。なお、特に精密な湿度管理を施す必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを活用している。

また、資料劣化に関係する化学物質（ギ酸、酢酸、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、アンモニア）の濃度を定期的に確認し、基準値を超過する箇所については活性炭等の吸着剤を使用して低減を図るなど安定化に努めている。

なお、劣化が進んだ出土金属器・木器については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

### (イ) 生物学的劣化からの防除

文書、書籍類、繊維製品、自然史標本等有機物を素材とする資料は、虫やカビにより食害される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫やカビが付着している可能性があり、有害生物を駆除することなく収蔵庫や展示場に運び込んだ場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫やカビから資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌装置でくん蒸を行っている。令和元年度の滅菌装置によるくん蒸実施状況は、表5.(4)-9に示すとおりである。

表 5.(4)-9 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部 門	資 料 種 別	数 量	単 位	備 考
民 俗	民俗資料	35	箱	演示具
	その他	7	件	
生 物	押し葉標本	30	箱	トラ/アカウミガメ 台風被災資料
	昆虫標本（ドイツ箱入）	28	箱	
	剥製	2	件	
	山田町立鯨と海の科学館所蔵海藻標本	1	件	
地 質	岩石・化石標本	15	箱	
歴 史	軸装類、戦争資料等	3	箱	軸装・額装品等
	その他	29	件	
被災資料	陸前高田市立博物館所蔵紙製資料	45	箱	

令和元年9月1日から10日まで、密閉くん蒸法により、第1・第2・第3・第4収蔵庫、歴史・古美術整理室及び第2資料登録室、書庫、No.4倉庫（第2書庫）、総合展示室、いわて文化史展示室をくん蒸した。その後、有害な虫やカビの発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚及び展示ケース上部に固着する塵埃の除去を行った。なお、令和元年7月及び10月には館内の害虫生息調査及び浮遊菌調査を、12月及び令和2年2月には浮遊菌調査を実施している。

令和2年度についても、有害な虫やカビの発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法および関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

## 5. 事業の概要

### (5) 総務企画調整

#### ア. 総括出版広報

##### (ア) 印刷物

###### a. 博物館だより

**161号** 目次/テーマ展 古・岩手のクロガネー発掘から見えてきた古代~中世の鉄文化ー表紙/いわて文化ノート 東北北部の古代赤彩土器~7世紀頃の赤彩文化を中心に~p.2-3/展覧会案内 テーマ展「古・岩手のクロガネー発掘から見えてきた古代~中世の鉄文化ー」 p.4-5/活動レポート チャレンジ!はくぶつかん 平成30年度文化財等取扱講習会 p.6/事業報告 トピック展「今を生きる恐竜たち」 冬の写生会 p.7/インフォメーション p.8

**162号** 目次/企画展 よろい・かぶと・かたなの世界 表紙/いわて自然ノート「仏法僧物語」 p.2-3/展覧会案内 企画展「よろい・かぶと・かたなの世界」 p.4-5/事業報告 ゴールデンウィークスペシャルイベント 事業報告 県博バックヤードツアー p.6/活動レポート トピック展「青い鳥」 古文書入門講座 p.7/インフォメーション p.8

**163号** 目次/共同展 被災資料再生の今 表紙/事業報告 三陸防災復興プロジェクト2019 三陸ジオパークワクワクフェスタ岩手の海とジオの魅力展 国立科学博物館と岩手県立博物館の共同巡回展示「生命のれきし~君につながるものがたり~」 p.2-3/展覧会案内 共同展「被災資料再生の今ー過去と未来をつなぐ・資料から学ぶー」の開催にあたって p.4-5/事業報告 教員のための博物館の日 事業報告 第77回自然観察会 相の沢キャンプ場 p.6/活動レポート トピック展 骨の動物園2019 事業報告 令和元年度自然体験活動における安全管理研修会 p.7/インフォメーション p.8

**164号** 目次/テーマ展 化石の水族館 表紙/いわて文化ノート 今に伝わる古代の塩づくり p.2-3/展覧会案内 テーマ展「化石の水族館」 p.4-5/事業報告 考古学セミナー現地見学会「近世たたら場ー平庭鉄山を歩くー」 事業報告 令和元年度 岩手県文化振興事業団プレゼンツ「文化・芸術が集うとき in 一関」 p.6/活動レポート 文化の日開催イベント活動レポート トピック展「もしかしてヒアリ!?!」 p.7/インフォメーション p.8

###### b. 平成30年度岩手県立博物館年報

令和元年5月1日発行 (A4判相当PDF版、69頁、ホームページ掲載)

###### c. 行事案内リーフレット

令和元年度下半期分 (B4変形・巻四ツ折、25,000部、令和元年8月発行)

令和2年度上半期分 (B4変形・巻四ツ折、25,000部、令和2年3月発行)

###### d. 子供向け行事案内リーフレット

(「いわはく子ども新聞」へ移行)

e. いわはく子ども新聞（旧 冬・春休み子ども新聞）

平成 31 年 4 月発行（A4・45,000 部）

令和元年 7 月発行（A4・45,000 部）

令和元年 12 月発行（A4・45,000 部）

令和 2 年 3 月発行（A4・45,000 部）

## （イ） 広報活動

### a. 当館独自の広報

#### ①定期発行

イベントガイド（毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約 2,000 部）

行事案内リーフ（年 2 回、公共施設および観光施設等配布、26,000 部）

子どもリーフ（年 1 回、近隣小学校等に配布、30,000 部）

「冬・春休み子ども新聞」（年 1 回、二戸～奥州市の小学校等に配布、45,000 部）

#### ②不定期発行

新聞広告(岩手日報ぽらん)

その他各事業別ちらし（随時） 等

### b. その他の公所

教育記者クラブ、日博協、全科協、県観光協会、盛岡観光コンベンション協会

県庁広聴広報 等

### c. 新聞各社への情報

岩手日日新聞、胆江日日新聞、デーリー東北、東海新報、盛岡タイムス、秋田魁新報 等

### d. ミニコミ誌等

acute、Amuse、vivitto、情報誌游悠、rakra、松園新聞、まいふれ 等

### e. テレビ・ラジオによる広報

IBC テレビ・ラジオ（情報番組、天気フィラー、テレビスポット、ラジオ番組中継等）

## （ウ） 博物館公式ホームページ及び SNS の運営

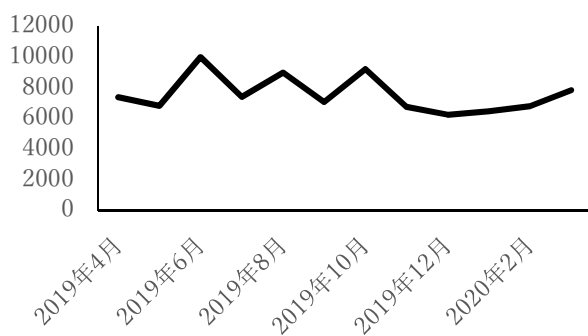
岩手県立博物館公式ホームページ

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成 13 年 3 月 1 日に正式公開された。平成 24 年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバの cgi プログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。令和元年度は、全てのページの閲覧回数合計は 725,880 回と、前年度より約 10.5%増加した。また、トップページの閲覧回数は 91,177 回で、前年度より 8.1%増加した。月別閲覧回数では、6 月、8 月、10 月にピークが見られた（表 5 (5)－1）。その他のページでは、展覧会案内、博物館の概要、展示室案内の順にページの閲覧回数が多かった。

I.B.Museum SaaS を利用した当館収蔵資料の公開システム「デジタルアーカイブ」への令和元年度のアクセス実績は、5,908 回である。

表 5.(5)-1 トップページの月別閲覧回数（令和元年度）



SNS の利用としては、開館 30 周年を機に平成 22 年 9 月 30 日からツイッターアカウントを運用しているほか、平成 28 年 1 月 5 日からフェイスブックの正式運用を開始した。令和元年度内のツイート回数は 147 回であった。年度末時点のツイッターアカウントのフォロワー数は約 5,000 人と、前年度に比べて約 6.4%増加している。

## イ. 情報機器の管理

令和元年度は、職員個々が使用するノートパソコン 22 台を更新し、OS を Windows 7 から Windows 10 に切り替えた。また、民俗部門整理室及び第三収蔵庫に設置した無線 LAN アクセスポイントが故障したため更新した。

## ウ. 委員会等職員派遣

表 5.(5)-2 令和元年度外部団体等への委員の派遣一覧

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内容等	派遣職員
1	5 月 15 日	県環境保全課		希少植物調査	鈴木まほろ
2	5 月 22 日	県環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第 81 回	鈴木まほろ
3	5 月 22 日	滝沢市教育委員会		カワシンジュガイ調査	渡辺修二
4	6 月 6 日	県環境生活企画室	三陸ジオパーク副読本の改定検討委員会	同左 第 1 回	山岸千人
5	6 月 13 日	県環境生活企画室	県環境審議会	同左 第 41 回	鈴木まほろ
6	6 月 15 日	県自然保護課		希少植物調査	鈴木まほろ
7	6 月 19 日	滝沢市教育委員会		カワシンジュガイ調査	渡辺修二
8	6 月 18 日	沿岸広域振興局大船渡土木センター		希少植物調査	鈴木まほろ
9	6 月 20 日	北上市史編さん室	北上市史編さんに係る事務調整会議	同左	鈴木まほろ
10	7 月 22 日	県環境生活企画室	三陸ジオパークを活用した理科授業の副読本作成検討委員会	同左 第 2 回	山岸千人
11	7 月 31 日	滝沢市教育委員会		カワシンジュガイ調査	渡辺修二
12	8 月 28 日	滝沢市教育委員会		カワシンジュガイ調査	渡辺修二
13	8 月 28 日	沿岸広域振興局	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動物調査検討委員会	同左	鈴木まほろ

No.	月 日	委嘱元	委員会等名称	内容等	派遣職員
14	9月2日	県環境生活企画室	三陸ジオパークを活用したESDモデル授業研究会	於：野田中学校	山岸千人
15	9月12日	県環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第82回	鈴木まほろ
16	9月17日	北上市史編さん室	北上市史編さん自然部会	同左 第8回	鈴木まほろ
17	9月20日	県自然保護課	県環境保全指針改定検討委員会	同左 第4回	鈴木まほろ
18	9月25日	県自然保護課	県環境審議会 自然・鳥獣部会	同左	鈴木まほろ
19	9月26日	滝沢市教育委員会		カワシンジュガイ調査	渡辺修二
20	10月3日	東北森林管理局	早池峰山周辺地域のニホンジカの生息状況等調査に係る検討委員会	同左 第1回	鈴木まほろ
21	10月17日	県環境生活企画室	三陸ジオパーク授業用副読本作成企画選考委員会		山岸千人
22	10月17日	滝沢市教育委員会		カワシンジュガイ調査	渡辺修二
23	10月31日	県自然保護課	いわてレッドデータブック改訂検討委員会	同左	鈴木まほろ
24	10月31日	県環境生活企画室	三陸ジオパークを活用したESDモデル授業研究会	新里中学校	山岸千人
25	11月13日	三陸ジオパーク推進協議会	三陸ジオパーク再認定審査に係るヒアリング		望月貴史
26	12月5日	県高等学校教育研究会理科部会	理科研究発表会事前審査	県総合教育センター	渡辺修二
27	12月5日	県環境生活企画室	三陸ジオパークを活用したESDモデル授業研究会	越喜来中学校	山岸千人
28	12月17日	県高等学校教育研究会理科部会	理科研究発表会	県総合教育センター	渡辺修二
29	12月20日	北上市史編さん室	北上市史編さんに係る事務調整会議	同左	鈴木まほろ
30	12月21日	日本生態学会東北地区会	地区委員会	同左	鈴木まほろ
31	1月14日	県環境生活企画室	三陸ジオパークを活用した理科授業の副読本作成検討委員会	第3回	山岸千人
32	1月24日	県自然保護課	いわてレッドデータブック改訂検討委員会	同左	鈴木まほろ
33	1月24日	県自然保護課	県希少野生動植物保護検討委員会	同左	鈴木まほろ
34	1月30日	県自然保護課	県環境保全指針改定検討委員会	同左 第5回	鈴木まほろ
35	2月7日	県環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第83回	鈴木まほろ
36	2月10日	県自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会	同左	鈴木まほろ
37	2月10日	県環境生活企画室	県環境審議会	同左 第42回	鈴木まほろ
38	2月14日	八幡平市	八幡平市博物館協議会		木戸口俊子
39	2月21日	東北森林管理局	早池峰山周辺地域のニホンジカの生息状況等調査に係る検討委員会	同左 第2回	鈴木まほろ
40	2月25日	金ケ崎町生活環境課	生物多様性かねがさき地域戦略推進協議会	同左	鈴木まほろ
41	3月12日	沿岸広域振興局	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	同左	鈴木まほろ
42	3月15日	三陸ジオパーク推進協議会	三陸ジオパーク認定ガイド認定審査会	宮古市・大船渡市	山岸千人
43	3月16日	県自然保護課	いわてレッドデータブック改訂検討委員会	同左	鈴木まほろ 渡辺修二
44	3月18日	三陸ジオパーク推進協議会	三陸ジオパーク認定ガイド認定審査会	釜石市	山岸千人

## 工. 外部助成

○研究助成 令和元年度は、外部助成として1件の採択があった。

表 5.(5)-3 令和元年度外部助成金採択状況

	氏名	部門	関連事業・研究テーマ名等	助成の名称	金額	申請先
1	望月 貴史	地質	テーマ展「化石の水族館」	全国科学博物館活動等 助成事業	45万円	一般財団法人 全国科学博物館振興財団



## 6. 文化財レスキュー活動

### (1) はじめに

2011年3月11日に発災した東日本大震災によって、東日本太平洋沿岸部に立地する博物館、学校、宗教法人関連施設はもとより、それらの機関や個人が所有する膨大な数の文化財、自然史標本、その関連資料等が被災した。未曾有の大規模自然災害発生を受け、岩手県立博物館（以下、当館という。）では、2011年4月2日から今日まで、岩手県太平洋沿岸部で被災した様々な資料の救出とその再生に取り組んできた。

救出された資料を再生するには、津波によってもたらされた資料劣化を誘因する有害物質（塩分やたんぱく質、脂質など）を除去し、資料を長期にわたり安定した状態で保管できるようにする安定化処理が不可欠である。そこで当館では、全国の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携しながら試行錯誤を重ね、様々な資料に対する安定化処理方法を構築し、救出された資料の再生を図ってきたところである。

2020年3月末現在、岩手県太平洋沿岸部から救出された25万点余りについてその再生が果たされたが、それでも未だ25万点を超える資料が救出されたままの状態である。それらの中には水への浸漬が困難なため、新たな措置方法を構築して対処しなければならない資料が相当数存在する。津波で被災した資料の再生法は国際的にも未確立であるため、再生された資料は当分の間、措置後の状態を注意深く経過観察する必要がある。これについても全国の専門機関と連携しながら、対応を進めている。以下に2019年度の取組状況について報告する。

### (2) 安定化処理

当館では2011年4月5日に、岩手県陸前高田市立図書館から最初に救出された岩手県指定文化財『吉田家文書』及びその関連資料の処理に着手した。処理の基本は、除菌、除泥、脱塩であり、その実践に当たっては資料の素材や劣化状況に応じたきめ細かな対処が必要である。腐敗が進行し、脆弱な資料に対する措置は困難を極めたが、様々な機関の専門家からの技術的支援を受け、その処理を進めることができた。2011年の下半期には、古文書や書籍類を対象に構築された措置方法を改変し、民具の安定化処理方法を構築して処理を施してきたところである。

一連の措置によって多くの資料を再生することができたが、2014年に東京文化財研究所と共同で行った経過観察によって、それまでに措置を施した紙を素材とする資料の中に、異臭や変色の発生がみられるものが相当数確認された。その原因を調査した結果、資料に残留する魚介類由来の脂質やたんぱく質が細菌によって分解されることにより発生した化学物質により引き起こされた現象、いわゆる嫌気性発酵による可能性の高いことが判明した。異臭の発生や変色を防止するため、資料に残留する脂質やたんぱく質の除去を目的とする医療用中性洗剤（ホワイ7P）を用いた洗浄工程を新たに加えた結果、一連の状況を改善することができた。異臭や変色は、植物繊維を素材とする民具（国登録有形民俗文化財のノリスキ網やタモなど）や、吉田家文書に付随する気仙郡村絵図にも確認された。

木部と金属部からなる漁撈用具の場合、異臭の発生に加え、金属部の錆化も観察された。これは嫌気性発酵により発生するカルボン酸誘導体に起因する可能性が高い。そこで、漁撈用具についても紙を素材とする資料と同様に中性洗剤による洗浄を加え、金属部については表面錆の除去と防錆を施した。結果、現在までの経過観察で異常は確認されず、処理後の状態は良好である。

絵図等は、墨に加え染料や顔料で彩色されており色材料の溶出の恐れがあるため、中性洗剤による洗浄は難しい。よって、たんぱく質や脂質を除去するための新たな洗浄法の構築が必要となる。現在、中性洗剤に替わる洗浄液の使用や吸引機を活用した新たな洗浄法の検討が進められている。今年度は、発災直後に救出され安定化処理を施したものの脆弱なためその後の取り扱いが困難な絵図をはじめとする紙を素材とする資料に対し、修復の専門家の支援を得て裏打ちを行った。また、襖の裏張りに使用された古文書や書簡類の整理を進めた。

自然史標本については、発災時に全国の研究者が連携して構築した措置方法を用い、安定化処理及び修理が進められてきた。今年度、昆虫標本については新たに発見された標本に対する安定化処理及び修理を施した。植物標本については、標本に関連する学術資料の整理を進めた。

2019 年度に当館で実施した安定化処理及び修理は表 1 に示すとおりである。岩手県立博物館に搬入された被災資料のうち、陸前高田市を除く 5 市町（宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市）の資料については 2019 年度末で措置を完了した。

東日本大震災以降、台風や集中豪雨による水害が多発している。岩手県では 2016 年 8 月 30 日に台風 10 号の直撃を受け、遠野市立図書館所蔵書籍類、岩泉町教育委員会所管近世文書をはじめとする様々な資料が水損した。その資料の一部が岩手県立博物館に搬入され、再生作業が施された。遠野市

立図書館所蔵資料 290 点については、救出から 2 日後に当館の冷凍庫へ搬入され、腐敗防止が図られた。2018 年度から文化庁の支援を得て、遠野市立図書館関係者やボランティアの方々を当館に招聘し、措置法についての研修を行った後、当館職員と共同で乾燥、除泥等の措置が施された。こうした関係者の努力により 2020 年 2 月 27 日に搬送された全ての資料の措置を終えることができた。

表 1 2019 年度の安定化処理及び修理の実施状況

	件 名	件数
1	被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1
2	被災民俗資料安定化処理及び修理業務	1
3	被災鳥羽源藏コレクション安定化処理及び修理業務	1
4	被災考古資料安定化処理及び修理業務	1
5	被災昆虫標本修理業務	1
6	被災自然史関連資料修理業務	1
7	教育委員会所蔵絵図	1
8	教育委員会所蔵書籍類	1
9	教育委員会所管近世文書	1

図 1 台風 10 号で被災した資料再生の研修



安定化処理実施状況の見学



除泥作業

### (3) 確立した安定化処理技術の普及

被災した資料の再生は、国内はもとより国際的にみても未確立である。当館ではこのような状況をふまえ、被災資料の安定化処理及び修理を実施している施設内の作業を可視化し、博物館来館者が自由に見学できるようにしている。さらに、展示・教育普及活動等を通じ、多くの方々に被災資料再生の現状を報告し、確立された技術の公開を図ってきた。2014年5月には、岩手県立博物館を中核館、東京国立博物館、陸前高田市立博物館、公益財団法人日本博物館協会、NPO法人文化財保存支援機構を主要構成機関とする「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会」(以下、プロジェクト実行委員会という。会長 岩手県立博物館長)を結成し、ア. 連綿と続く被災文化財等再生に対する取り組みの状況を多くの方々に理解していただく、イ. 多くの専門機関の連携により構築された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有しその普及を図る、ウ. 今後も発生が懸念される大規模自然災害に備える、エ. 被災した博物館の復興を支援する、という4つを活動目的に掲げ、文化庁の支援をいただきながら様々な活動に取り組んできた。

2019年度は、別府大学附属博物館で「被災文化財の修復と保存」(2019年7月8日～8月17日)を、女子美術大学で「甦る。ふるさとの宝物」(2019年11月2日～12月21日:女子美術大学杉並校舎)、(2020年1月6日～3月10日:女子美術大学相模原校舎。但し、3月は新型コロナウイルス感染防止のため中止)を開催した。

確立された安定化処理技術を全国の博物館関係者と共有し、今後発生が懸念される類似の自然災害に備えることを目的に、2019年8月3日に別府大学、



図2 別府大学附属博物館における展示

同年12月21日に京都外国語大学、2020年2月18日及び19日には香川ミュージアムで安定化処理をテーマとするワークショップを実施した。各回とも共通して、被災資料の救出から再生に至るまでの状況、構築された安定化処理技術の概要及び今後の課題について説明し、被災資料の救出を図る上での留意点や緊急時における対処を円滑に進める上で日頃から準備しておくべき事項等について解説した。別府大学のワークショップでは民具と紙を素材とする資料の安定化処理方法について、京都外国語大学ではアクリル画の安定化処理と課題について、香川ミュージアムでは水濡れした押し葉標本の応急処置及び民具の安定化処理をテーマとする実習、アクリル画の安定化処理に関する実習及び講義を行った。終了後、参加者から被災した資料の救出方法やその保管方法、水への浸漬が困難な資料の脱塩方法等をはじめとする技術的な質問や、大規模自然災害が発生した場合の備えについて質問や意見が出された。

また、別府大学ではワークショップと同日の2019年8月3日に「被災文化財の修復と保存—東日本大震災と九州の自然災害を通して—」と題した講演会及びシンポジウムを実施した。これは東日本大震災で実践された被災文化財救出活動の状況と、熊本地震及び九州北部豪雨等の災害対応と被災文化財復旧の状況について情報交換し、今後の類似災害に対する備えを進めることを目的としたものである。

2019年9月2日～9月4日、ICOM(国際博物館会議)の京都大会が国立京都国際会館において開催された。プロジェクト実行委員会はミュージアム・フェアに出展し、東日本大震災における岩手県太平洋沿岸部の博物館関連施設の被災状況、被災資料の救出と再生活動、構築された安定化処理方法の概要、プロジェクト実行委員会の活動状況について、日英2ヶ国語で表記したパネルで解説した。併せて、安定化処理前後の書籍類、古文書、昆虫標本の実物展示を行った。

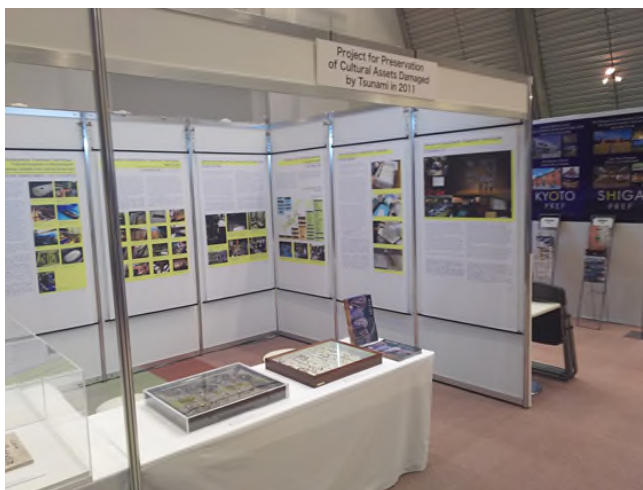


図3 ICOM 京都大会でのパネル展示

#### (4) 被災地支援

被災地では発災以降、救出された被災文化財等再生のための作業が連綿と続けられている。救出された資料の再生は、技術的に対処可能な資料を対象に進められてきたが、活動開始後9年が経過した現状において、様々な技術を駆使して対処しなければならない資料が多くを占め、それらに対する措置を施す必要が生じている。被災地に対し、安定化処理方法についての最新の情報と新たに構築された技術を提供し活動を支援することを目的として、2019年8月20日と8月21日の2日間に渡り、仮設陸前高田市立博物館において支援ワークショップが開催された。ここでは、民俗文化財の伝播からみる三陸についての講義の後、被災ガラス乾板の保存処置、適切な資料保管環境の整備方法、水洗不能な資料に対する処置方法、被災写真資料の安定化処理、自然史標本の整理方法についての実習が行われ、仮設陸前高田市立博物館で被災資料の再生に従事する職員と講師との間で活発な質疑・応答がなされた。

被災地での取り組み状況を地域住民に伝え、活動に対する理解の醸成を図ることも、被災した博物館の再建を進めるうえで重要な課題である。この課題に応えるため、2020年1月11日～2月24日の期間、岩手県立博物館においてプロジェクト実行委員会と岩手県立博物館が共同展「被災資料再生の今～過去と未来をつなぐ・資料から学ぶ～」を、2020年2月8日～12日には陸前高田市コミュニティホールにおいて支援特別展「ずっとずっとふるさと陸前高田―海と貝のミュージアムから救出された貝たち―」を開催した。この期間中の2月9日には同所において「よみがえる文化財と博物館の復興」と題した支援シンポジウムが開催され、再生された国登録有形民俗文化財「陸前高田の漁撈用具」の漁撈史における位置づけ、海と貝のミュージアムが地域に果たしてきた役割、再建される博物館の概要などがわかりやすく解説され、参加者からは新博物館への期待が表明された。



図4 支援シンポジウムの開催

## (5) 今後の課題

発災以降、全国の専門機関が連携し連綿と被災資料の再生を進めてきたが、陸前高田市に限っても未だ約 26 万点余りの資料が救出されたままの状態と保管されている。その中には、水洗不能な資料や、海水損によって素材が変質し、物性の回復を図らなければならない資料など、新たな安定化処理方法を構築したうえで対処しなければならないものが多数含まれている。2021 年 3 月末をもって終了する後期復興計画後の展望がみえない現状において、残された資料の再生を図るには克服すべき数多くの課題が待ち受けている。

このような状況をふまえ当館では、これまで被災資料再生に従事してきた専門機関、プロジェクト実行委員会との連携を一層強化しながら、残された資料の再生と被災した博物館の復興支援を図ると共に、類似する大規模自然災害発生に対する備えを進める活動に取り組んでいきたいと考えている。皆様には引き続き御支援をお願いしたい。

## 7. 岩手県立博物館友の会

### (1) 概要

本年度は、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。高齢会員の退会などがあり、会員数は減少傾向にあるが、40歳代～60歳代の新規会員も少数ではあるが入会している。また、団体会員・賛助会員の増員を今後も望むところである。

友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

### (2) 会員数

令和元年度会員数	合計 265 件・481 人
一般会員	165 件・165 人（平成 30 年度 169 人）
家族会員	77 件・255 人（平成 30 年度 83 件・259 人）
小中高会員	0 人（平成 30 年度 0 人）
終身会員	25 人（平成 30 年度 25 人）
賛助会員	17 件・30 口（平成 30 年度 17 件・32 口）
団体会員	6 件（平成 30 年度 6 件）

### (3) 主催事業

#### ア. 現地見学会

(ア) 第 1 回 3・11～追悼の旅～陸前高田市、大船渡市、気仙沼市

※ 最少催行人数に満たなかったため中止

#### イ. 野外観察会

(ア) 第 1 回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「見つけよう！夏の虫たち」

7月28日（日）参加者 13 人

講師 博物館研究協力員 千葉武勝氏

(イ) 第 2 回 「自然観察会」 博物館行事に参加

「早池峰山麓の自然観察」

10月5日（土）参加者 22 人

講師 主任専門学芸員 鈴木まほろ

(ウ) 第 3 回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「久慈市周辺に見られる暁新世の地層と化石」

7月7日（日）参加者 35 人

講師 東京学芸大学附属国際中等教育学校 堀内順治氏

(エ) 第 4 回 「地質観察会」 博物館行事に参加

「熱帯の海の生物たち〈陸前高田市〉」

11月3日（日）

講師：永広昌之氏（東北大学総合学術博物館協力研究員）

※ 台風 19 号（10 月）による林道崩壊のため中止

## ウ. 話のサロン（講演会）

- (ア) 第1回「八幡平よもやま話」  
5月25日（土）参加者42人  
講師 八幡平地区パークボランティア連絡協議会  
「ヒナザクラ会」会員 松田忠昭氏
- (イ) 第2回「大名と甲冑～盛岡藩を中心に～」(県博日曜講座)  
9月22日（日）参加者53人  
講師 専門学芸調査員 原田祐参
- (ウ) 第3回「岩手の野生ラン」  
令和2年2月15日（土）参加者37人  
講師 山楽会会員 片山千賀志氏

## エ. 会報発行等

- (ア)「友の会会報」発行（A4判8頁、300部）  
3回（No.115～117）発行（4,7,2の各月）
- (イ)「友の会通信」発行（A4判両面刷り2頁、300部）  
3回（No.120～122）発行（6,9,12,の各月）
- (ウ)「岩手県立博物館だより」発送  
年4回発送（No.161～164）（6,9,12,3の各月）
- (エ)「岩手県立博物館行事案内」発送  
年2回（4,9各月）

県博の行事等の案内、要項を年8回開催の友の会企画委員会で随時発送。

## オ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部を博物館行事への参加とし、博物館まつりの代替日プログラム「昔遊び」では企画委員のほかに数名の会員の協力を得て、いろいろな昔遊びを子供たちと一緒に遊び指導することができた。

## 8. 博物館利用者入館状況

表 8.(1) 開館以来の入館者数（総利用人数）

年 度	総 利 用 人 数			計	開館 日数	1日平均 利用人員
	一 般	高・学生	小中学生			
昭 55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭 56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭 57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭 58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭 59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭 60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭 61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭 62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭 63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平 元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平 2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平 3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平 4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平 5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平 6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平 7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平 8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平 9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平 10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平 11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平 12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平 13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平 14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平 15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平 16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平 17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平 18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平 19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平 20	25,341	837	14,905	41,083	302	136
平 21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平 22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平 23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平 24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平 25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平 26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平 27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133



総 利 用 人 数					開館 日数	1日平均 利用人員
年 度	一 般	高・学生	小中学生	計		
平 28	26,620	1,417	16,931	44,968	304	148
平 29	31,074	1,631	17,614	50,319	303	166
平 30	27,889	1,419	18,575	47,883	304	158
令 元	27,743	1,399	18,097	47,239	303	156
総 計	1,879,056	200,506	879,143	2,958,705	11,809	-
平 均	46,976	5,013	21,979	73,968	295	250

表 8.(2) 令和元年度月別入館者数

区 分	総 利 用 人 数				開館日数	1日平均 利用人員
	一 般	高・学生	小中学生	計		
4	2,561	68	1,650	4,279	26	165
5	3,791	366	3,083	7,240	27	268
6	1,915	61	1,371	3,347	26	129
7	2,003	191	986	3,180	27	118
8	3,062	184	2,129	5,375	29	185
9	1,590	42	1,293	2,925	17	172
10	3,195	77	1,927	5,199	26	200
11	4,018	134	2,199	6,351	26	244
12	1,297	37	719	2,053	24	86
1	1,327	65	959	2,351	24	98
2	1,573	87	845	2,505	25	100
3	1,411	87	936	2,434	26	94
計	27,743	1,399	18,097	47,239	303	156

表 8.(3) 開館以来の入館者数（利用区分別）

区分 年度	個 人 利 用				団 体 利 用				免 除 利 用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
昭 55	69,259	4,275	16,657	90,141	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭 56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭 57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭 58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭 59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭 60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭 61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭 62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭 63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543

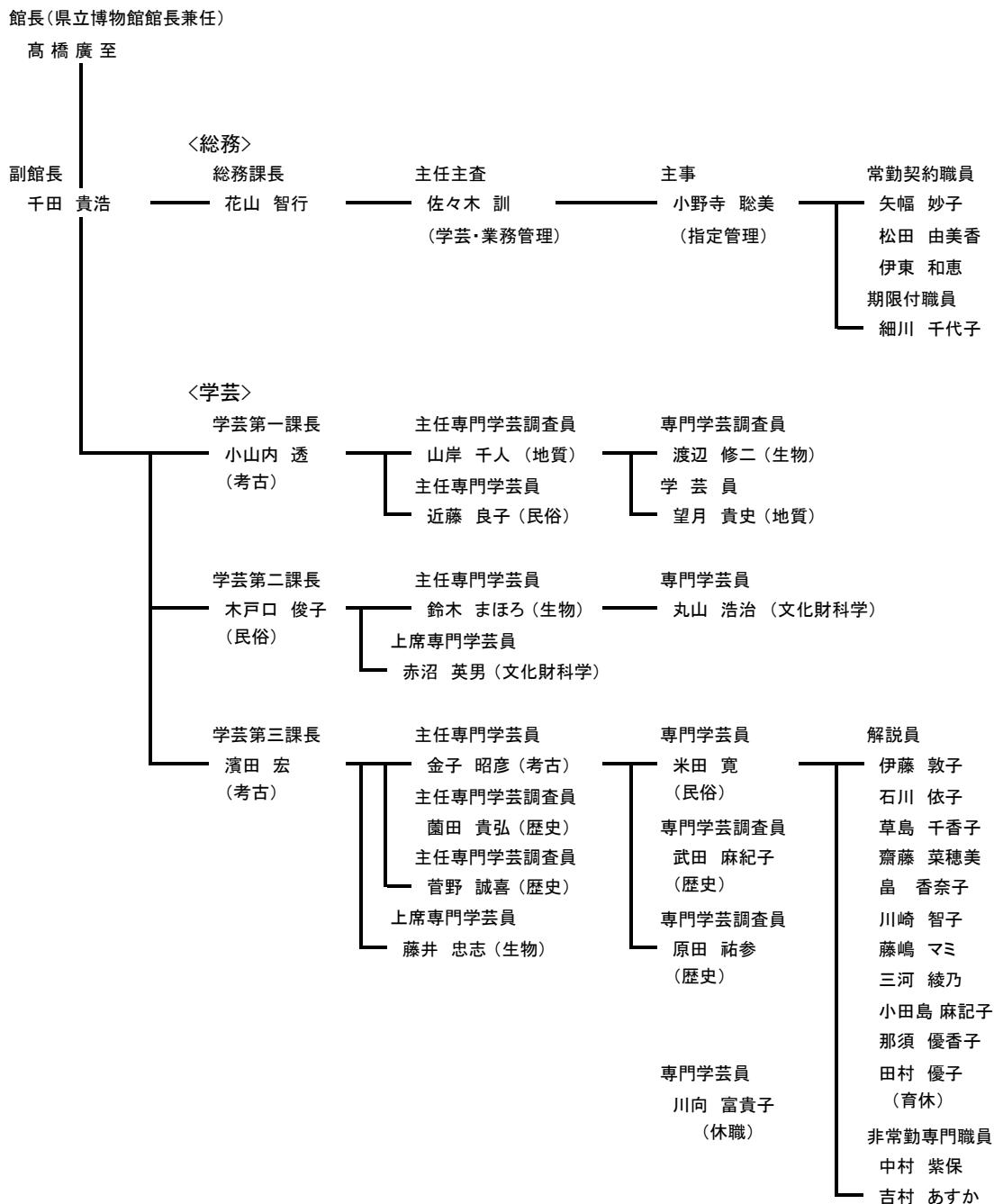
区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,361	512	6,975	21,848	1,822	71	320	2,213	9,158	254	7,610	17,022
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
平28	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317
平29	20,101	945	10,266	31,312	1213	281	333	1,827	9,760	405	7,015	17,180
平30	18,504	685	11,867	31,056	696	98	244	1,038	8,689	636	6,464	15,789
令元	17,592	805	10,244	28,641	578	29	157	764	9,573	565	7,696	17,834
総計	1,108,451	57,064	326,683	1,492,198	440,559	16,221	39,400	496,180	330,046	127,221	513,060	970,327
平均	27,711	1,427	8,167	37,305	11,014	406	985	12,405	8,251	3,181	12,827	24,258

表 8.(4) 令和元年度月別入館者数（利用区分別）

区分	個人利用				団体利用				免除利用			
	月	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生
4	1,692	66	1,158	2,916	0	0	0	0	869	2	492	1,363
5	1,858	57	1,152	3,067	20	0	0	20	1,913	309	1,931	4,153
6	1,150	53	679	1,882	164	6	41	211	601	2	651	1,254
7	1,282	63	771	2,116	109	23	28	160	612	105	187	904
8	2,579	115	1,803	4,497	43	0	39	82	440	69	287	796
9	1,116	42	537	1,695	65	0	0	65	409	0	756	1,165
10	1,982	68	711	2,761	107	0	31	138	1,106	9	1,185	2,300
11	2,039	80	736	2,855	21	0	0	21	1,958	54	1,463	3,475
12	707	36	477	1,220	49	0	18	67	541	1	224	766
1	912	54	649	1,615	0	0	0	0	415	11	310	736
2	1,064	84	638	1,786	0	0	0	0	509	3	207	719
3	1,211	87	933	2,231	0	0	0	0	200	0	3	203
計	17,592	805	10,244	28,641	578	29	157	764	9,573	565	7,696	17,834

# 9. 令和元年度公益財団法人岩手県文化振興事業団 博物館組織

H31. 4. 1



学芸部門職員 of 部門別人員

地質	考古	歴史(古美術)	民俗	生物	文化財科学	休職	計
2人	3人	4(1)人	3人	3人	2人	1人	17(1)人

休職 1

# 10. 岩手県立博物館使命書

(平成20年3月25日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

## 1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

## 2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

## 3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

# 1 1. 関係条例・規則等

## (1) 博物館条例

昭和 55 年 7 月 15 日条例第 41 号

(設置)

第 1 条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第 1 条の 2 博物館の管理は、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 244 条の 2 第 3 項の規定に基づき教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第 1 条の 3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第 2 条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第 1 項の許可に条件を付することができる。

第 3 条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第 3 項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第 3 項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第 4 条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。
- (5) 立入禁止区域に立ち入ること。  
(入館許可の取消し等)

第 5 条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第 2 条第 1 項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第 3 項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。
- (2) 第 2 条第 3 項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第 2 条第 1 項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第 3 条第 1 項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第 3 項」とあり、及び「第 2 条第 3 項」とあるのは「第 3 条第 2 項において読み替えて準用する第 2 条第 3 項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第 6 条 第 2 条第 1 項の許可を受けた者(以下「入館者」という。)は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第 7 条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

- (1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。
- (2) 身体障害者福祉法(昭和 24 年法律第 283 号)第 15 条第 4 項の規定により身体障害者手帳の交付を受

けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。

(3) その他知事が適当と認めるとき。

（入館料の不還付）

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することができる。

(1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。

(2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。

(3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

（損害賠償等）

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

（博物館協議会）

第10条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（補則）

第11条 この条例の実施に関し、第6条から第9条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

区 分	個 人	20人以上の団体
学生	140円	1人につき70円
一般	310円	1人につき140円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を閲覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額（以下「特別入館料」という。）を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料（特別入館料を除く。）は、無料とする。

## （2）博物館条例施行規則

昭和55年9月26日

規則第78号

（趣旨）

第1条 この規則は、博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

（領収書）

第2条 条例第6条第1項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則（昭和55年岩手県教育委員会規則第9号）第4条第2項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

（条例第7条の規則で定める者）

第3条 条例第7条第2号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児）及びその介護を行う者
- (2) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児）と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者
- (3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受け

ている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者

（入館料の免除及び還付）

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免除又は還付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別に定める様式による入館料免除（還付）申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

2 知事は、前項の入館料免除（還付）申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めるときは、別に定める様式による入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとする。

附 則（平成21年3月13日規則第7号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

### （3）岩手県立博物館管理運営規則

昭和55年9月26日  
教育委員会規則第9号

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- （1）月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）

に当たるときは、その翌日以後の日であつて当該休日に最も近い休日でない日）

- （2）資料整理日（資料の整理、点検等を行う9月1日から9月10日までの10日間をいう。）

- （3）12月29日から翌年1月3日まで

2 博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）第1条の2に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。（開館時間）

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館時間は、午後4時までとする。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

（入館許可の申請）

第4条 条例第2条第1項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

2 指定管理者は、条例第2条第1項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

（撮影、貸出等の許可）

第5条 条例第3条第1項の規定による許可を受けようとする者は、別に定める様式による資料撮影等許可（変更）申請書又は別に定める様式による資料貸出許可（変更）申請書を博物館長に提出しなければならない。

2 博物館長は、条例第3条第1項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。

3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。

4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損（損傷、亡失）報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

（汚損等の届出）



第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

(協議会の所掌)

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会(以下「協議会」という。)は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- (1) 資料の収集、保管、展示等に関すること。
- (2) 資料の調査研究、利用等に関すること。
- (3) その他博物館の運営に関すること。

(会長)

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第9条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(補則)

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則(平成21年3月6日教育委員会規則第2号)

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。
- 2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続に関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則

及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則(以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。)に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。

3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

令和元年度岩手県立博物館年報  
令和2年5月1日

編 集： 岩 手 県 立 博 物 館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷 34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発 行： 公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸 13-1

Tel 019-654-2235

